

長野県小県郡真田町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集

さなだまちいせき
真田町の遺跡

—— 遺跡詳細分布調査報告書 ——

2000. 3

真田町教育委員会

さなだまちいせき

真田町の遺跡

— 遺跡詳細分布調査報告書 —



●位置と地勢

本州のほぼ中央に位置し、長野県の東北部にあって東部は群馬県に接し、北部は長野市、須坂市に、西部は塩尻西坂城町に、南部は上田市と東御町に接しています。

面積は181.5km²で、東信地区では南佐久郡川上村、佐久市に次ぐ3番目に広い面積を有する町であります。地形的にみて、山地で南部を墜いては1,200m級の山に囲まれていて、役場を中心にして南北に半径内に人口、耕地、住居地が集中し、道路網が発達しています。この半径4kmの外かくは、秀麗川、尻馬川、神川、波沢川、角間川に沿って、帶状に耕地と住居地が散在しています。

また、當平均区は、2,000m級の山々に囲まれていて海拔1,200mの東西10km、南北6kmの一大高原をなし当原野菜の主産地となっています。

2000.3

真田町教育委員会



唐沢B遺跡の現況と出土遺物（神子柴型石斧と尖頭器／町指定文化財）



十二塚原遺跡の現況と出土遺物（押型文系土器）



和平遺跡の現況と出土遺物（異形部分磨製石器）



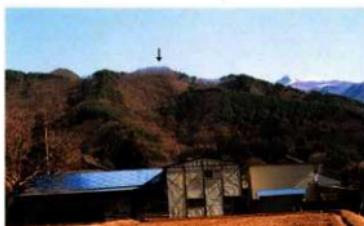
雁石遺跡の現況と出土遺物（魚形土製品／町指定文化財）



唐沢岩陰遺跡出土の弥生後期土器



藤沢古墳群（左：1号墳・右：2号墳）



長尾城（矢印）の遠景と郭



日向畠遺跡の石塔群



出早雄神社参道脇出土銭

序

真田町では平成9年度から11年度までの3年間、国庫および県費補助金を受け、町内遺跡分布調査を実施し、また、この事業に関連して、町内に残る山城の縄張図を作成するための調査を併せて実施しました。本報告書は、この調査の成果をまとめたものです。

真田町には多くの埋蔵文化財や中世の城館跡があります。

当町が誇るラグビーのメッカ、菅平高原には旧石器時代の遺跡をはじめ、見事な神子柴型石斧で有名な唐沢B遺跡や、県史跡である唐沢岩陰遺跡などがあり、上田小県地域でも最も古い歴史を有する地域として知られています。

また、当町は戦国の雄・真田氏発祥の地であり、中世の山城跡や居館跡などが数多く残っています。なかでも県史跡・真田氏館跡は、上田城築城以前の真田昌幸の居館として広く知られています。

今回の調査は、上信越自動車道などの高速交通網の整備に伴って増加してきた町内の開発行為に対応するために、埋蔵文化財、城館跡の範囲や性格を明らかにするために行なったものです。また、特に記しておきたいことは、何らかの事情で消えてしまった遺跡についても聞き取り調査や残された遺物の調査を行い、本書に情報を記録したことです。それは、この報告書が開発のためだけの遺跡地図とならないことを願った担当者の願いの表れでもあります。

調査にあたり、多くの方から貴重な情報をいただき、また、農閑期とはいえ、田畠の調査に対しご快諾いただいた皆さまのおかげで、40ヶ所の遺跡を新たに発見するなど、大きな成果をあげることが出来ました。

また、公私ともにご多忙の中、調査にご尽力いただいた先生方と調査にご指導ご協力をいただいた関係者の皆さまに対し、厚く感謝の意を表する次第です。

この事業の成果が埋蔵文化財保護意識を一層向上させ、また、真田町の埋蔵文化財を多くの皆さまに知っていただけることを願って、巻頭のごあいさつといたします。

平成12年3月24日

真田町教育委員会
教育長 大塚 賢

例　　言

1. 本書は、平成9年度から平成11年度までの3年間にわたり、真田町が国庫および県費補助金を受け実施した町内遺跡詳細分布調査と町内山城縄張図作成調査の報告書である。
2. 調査及び本書の編集・刊行は、真田町教育委員会が行った。なお、調査に係る資料は真田町教育委員会が保管している。
3. 調査は、報告書刊行を含めて、平成9年10月1日から平成12年3月24日まで行った。
4. 調査に係る作業分担は、以下のとおりである。

遺跡詳細分布調査

- ・表面採集調査 和根崎剛・岡嶋庄平・相馬敬子
- ・遺物実測・拓本 岡嶋庄平・相馬敬子
- ・分布地区原図作成 岡嶋庄平・相馬敬子
- ・遺跡・遺物撮影 和根崎剛・相馬敬子

山城縄張図作成調査

- ・調査指導・総括 篠本正治・児玉卓文
- ・現地踏査・測量 篠本正治・児玉卓文・尾見智志・利根川淳子・和根崎剛・岡嶋庄平・相馬敬子
- ・縄張図原図作成 児玉卓文

5. 本文の執筆・遺跡範囲の記入は、和根崎剛が行い、事務局が校閲した。

6. 本書に使用した地図は、真田町の調製した地形図である。縮尺は下記のとおりである。

遺跡分布地図 全体図1/30,000、分割図1/6,000、山城縄張図1/2,000・1/2,500

7. 真田町を2,000m×1,500mあるいは1,000m×1,500mのブロックで28分割し、掲載した。

8. 本書に収録した埋蔵文化財包蔵地は202件である。

9. 遺跡の範囲は、遺物の散布状況及び地形的条件、伝承等から予想されるものであり、埋蔵文化財という性格上、今後、範囲の変更や新たなる遺跡の登録もあり得る。

10. 遺跡番号は、北から長・傍陽・本原の順で新たに付し、これまで使用していた真田町遺跡分布図(昭和52年作成)等の番号は廃した。

11. 遺跡名には原則として小字名を付し、調査の結果、從来の名称に誤りが判明したものは改名した。ただし、小字皆平及び十ノ原内の遺跡には通称の地名等を付してある。

12. 分布図に記入した記号は、下記のとおりである。また、発掘調査した遺跡の区域は、スクリーンマークで範囲を示した。

占墳（現存するもの ▲・滅失したもの ▽）

13. 本調査に際しては、以下の方々のご指導、ご協力を賜った。ご芳名を記して、深く感謝の意を表したい。(順不同・敬称略)

青木勝秀、安藤裕、上田市立信濃國分寺資料館、大日方芳徳、神村透、川上元、川崎保、倉澤正幸、小柳義男、小山直、酒井佐、坂口誠一、宍相院、清水貞夫、助川朋広、関保、堤隆、長野県教育委員会文化財・生涯学習課、西沢嘉一、樋口昇一、廣瀬昭弘、丸山敏一郎、柳沢孝雄、山家神社、町内各中小学校、町内のみなさん

目 次

卷頭図版

序

真田町教育長 大塚 貞

例 言

第 1 章 調査の経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査組織の構成	1
3 調査の経過	1
4 調査の方法	2
第 2 章 真田町の原始・古代・中世	4
1 IH石器時代	4
2 縄文時代	4
3 弥生時代	5
4 古墳時代	5
5 奈良・平安時代	5
6 中世	6
第 3 章 調査の結果	
1 遺跡分布図 (1/6,000)	9
2 山城縄張図 (1/2,000)	59
3 遺跡一覧表	70
附 真田町の遺跡に関する主な文献	86
4 採集遺物一覧表・図版	88
第 4 章 成果と課題	94
1 真田町域における過去の分布調査	94
2 調査をふりかえって	98
参考・引用文献	103
写真図版	
報告書抄録	

附図 真田町遺跡分布図 (1/30,000)

町内山城縄張図

- 1 松尾城・達見番所跡/鬼ヶ城 (1/2,500)
- 2 真田山城 (真田氏本城) 跡/犬白城跡 (1/2,500)
- 3 尾引城 (横尾城) 跡/打越城 (古城) 跡/長尾城跡 (1/2,500)
- 4 根小屋城(高い城・低い城)跡/洗馬城跡 (1/2,500)
- 5 弥六城跡/猿ヶ城跡 (1/2,500)

第1章 調査の経過

1 調査に至る経過

真田町は、上田市の北方に隣接し、上信越自動車道上田インターチェンジの設置により、近年、宅地や工場団地の造成が盛んになり、開発に先駆けた発掘調査が増加している。

当町では、これまでに全町域を対象にした分布調査は、昭和60年代に実施が計画されたものの、担当者の急逝で中断された経過があった。そのため、現在まで長野県教育委員会作成の「真田町遺跡分布図」(マイラーベース)を基本図として使用していたが、時代の経過の中で、新知見を加えて、遺跡範囲の見直しなどを早急に行う必要があった。

真田町教育委員会では平成8年度に、「町内遺跡詳細分布調査」の国庫補助事業での実施を要望し、平成9年度から3ヶ年計画で事業を実施した。また、県教委文化財保護課(当時)の指導により、平成10年度から2ヶ年計画で、町内に残る山城の縄張図の整備を併せて行った。

2 調査組織の構成

(事務局) 真田町教育委員会 社会教育係

教育長 大塚 貢

教育次長 大久保文雄

社会教育係長 大塚久文(平成11年3月31日退任)

飯島和徳(平成11年4月1日着任)

社会教育係 和根崎剛(町誌編纂室を兼務)

(調査組織)

遺跡詳細分布調査

調査主任 和根崎剛(真田町教育委員会主事・日本考古学協会会員)

調査補助員 岡嶋庄平・相馬敦子(真田町教育委員会臨時職員)

山城縄張図作成調査

顧問 笹本正治(信州大学人文学部教授・長野県文化財保護審議委員)

調査指導・主任 児玉卓文(県立丸子実業高等学校教諭・日本考古学協会会員)

調査員 尾見智志(上田市教育委員会主事・日本考古学協会会員)

利根川涼子(信州大学人文学部学生)

和根崎剛

調査補助員 岡嶋庄平・相馬敦子

3 調査の経過

(1) 平成9年度

事業内容 本原地区の表面採集調査及び採集遺物の資料化

事業期間 平成9年10月1日～平成10年2月23日

事業費 500,000円(内訳 国庫250,000円、県費75,000円、町費175,000円)

調査経過

5月30日 国庫・県費補助金交付申請書を提出。

- 7月3日 国庫補助金の交付決定。
 14日 県費補助金の交付決定。
 10月1日 調査の準備を開始する。
 6日 本原地区的現地踏査を開始する。
 2月23日 平成9年度の事業を終了する。
 3月31日 国庫・県費補助金の額の確定。

(2) 平成10年度

事業内容 傍陽地区的表面採集調査及び採集遺物の資料化、教育委員会所蔵遺物の資料化。

松尾城・遠見番所、根小屋城、洗馬城の現地踏査と縄張図作成。

事業期間 平成10年6月22日～平成11年3月19日

事業費 1,100,000円（内訳 国庫550,000円、県費165,000円、町費385,000円）

5月6日 国庫・県費補助金交付申請書を提出。

6月24日 国庫補助金の交付決定。

29日 県費補助金の交付決定。

30日 傍陽地区的現地踏査を開始する。

11月29日 山城の現地調査を開始する。

2月28日 山城の調査結果の検討会を開催する。

3月19日 平成10年度の事業を終了する。

3月31日 国庫・県費補助金の額の確定。

(3) 平成11年度

事業内容 長地区的表面採集調査及び採集遺物の資料化、報告書の作成。

根小屋城、真田山城（真田氏本城）、天白城、尾引城（横尾城）、鬼ヶ城、猿ヶ城、弥六城、打越城、長尾城の現地踏査と縄張図作成。

事業期間 平成11年5月6日～平成12年3月24日

事業費 1,800,000円（内訳 国庫900,000円、県費270,000円、町費630,000円）

4月1日 国庫・県費補助金交付申請書を提出。

6月8日 国庫補助金1,450,000円の交付決定。

6月9日 県費補助金435,000円の交付決定。

同日 長地区的現地踏査を開始する。

11月1日 国庫・県費補助金の減額変更交付申請書を提出。

11月12日 山城の現地調査を開始する（～12月26日）。

3月24日 平成11年度の事業を終了する。

月 日 変更交付決定。

月 日 国庫・県費補助金の額の確定。



第1図 長・横尾地籍での調査



第2図 松尾城跡の調査

4 調査の方法

・遺跡詳細分布調査

分布調査は表面採集にもつとも都合がよい時期を

ねらって、山林内は落葉の前の夏期に、田畠は収穫の終わった晩夏から冬にかけて実施した。

遺物の表面採集は3人体制で、1／2,500の地形図を持参し、およそ一筆ごとに採集結果を記入しながら踏査を行った。山林内の遺跡の中には既に位置が不明となっているものもあったが、それらについては、聞き取りや文献記録等を援用し、遺跡の位置を確認できたものもある。古墳は現況を確認し、既に滅失した古墳は位置や出土遺物の情報を聞き取り調査し、内容の復元に努めた。また、教育委員会や学校に保管されていた土器片などの遺物を整理し、既に滅失してしまった遺跡の情報収集を試みた。特に曾平高原の調査では、遺跡が既に壊滅している事例が多く、こうした遺物からの情報が役立った。

採集した土器片などの資料は、洗浄し、資料化できるものについては、採拓・実測・写真撮影を行った。また、これらの資料をまとめ、遺跡毎に下記様式の「調査カード」を作成した。

第3図 調査カード

・山城網張図作成調査

繩張圖の作成は、個々の山城について、まず、踏査を行い、城域全体を把握することから始めた。

現地での図化を児玉卓文が行い、児玉の指示のもと、同行した調査員、調査補助員が測量を行った。

1/1,000地形図を持参し、現地で構造の測量結果を記入した。こうして作成した原図を兎玉が修正・加筆し、製図して完成させた。基本資料として宮坂武男氏が作成した縄張図や鳥瞰図を参考にし、既に破壊されていた段郭の切合いや占い登山道などの考証には、明治年代の公園などを援用し、縄張図の精度の向上に努めた。

第2章 真田町の原始・古代・中世

1 旧石器時代

真田町の旧石器時代の遺跡は、そのほとんどが菅平高原に分布している。菅平学校敷地、原谷地A・B、三日城遺跡などから遺物の出土が知られている。菅平学校敷地の石器は、東北地方に広く分布する東山系文化と呼ばれる石器文化、原谷地Aの石器は北信に分布する杉久保系文化、原谷地Bと三日城の石器は関東地方を中心に分布する茂呂系文化と共に石器製作技法がみられる。

旧石器時代に限られたことではないが、これらの遺跡は、かつてたくさんの水を湛えた菅平湿原をとりまくように分布しており、湿原が人々の生活に大きく関わっていたことが予想できる。

なお、傍陽の地蔵崎周辺、本原の境田遺跡でも旧石器時代の遺物が発見されている。

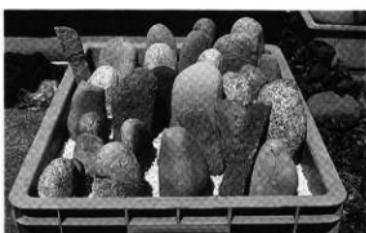


第4図 境田遺跡出土の尖頭器

2 繩文時代

菅平高原には旧石器時代に引き続いている縄文草創期の遺跡が数多く分布する。なかでも唐沢B遺跡や小島沖遺跡にみられる神子柴系石器文化は、その見事な局部磨製石斧の存在が特徴である。この石器文化は旧石器時代最終末、縄文時代草創期初頭のいずれかに位置づけられるものであるが、結論は出ていない。草創期に属する遺跡は他に東組E遺跡、石戸山遺跡などが知られる。

菅平高原の早期・押型文系土器文化は、早くから中央の学界に注目されていたが、今回の調査で傍陽地区にも同様の文化が存在した可能性が判明した。入軽井沢区の和平遺跡で、押型文土器に伴うとされる異形部分磨製石器（トロトロ石器）の出土が確認されたのである。この石器はかつて菅平の三日城遺跡でも出土しており、町内では2例目である。しかし、全国的にみると数の少ない石器であり、注目される。菅平では押型文土器のか、通称「こくすり石」と呼ばれる特殊磨石が数多く出土している。また、ただ1点のみであるが、長の十林寺でも発見されており、今後、押型文土器が発見される可能性もある。台地部と呼ぶ、神川の中流域に位置する四日市遺跡などでは、早期末の土器が出土している。



第5図 石戸山遺跡出土の「こくすり石」(大日方芳徳氏所蔵)

前期になると、菅平高原だけでなく、台地部でも遺跡がみられるようになるが、出土品からみると、菅平では遺跡から出土する遺物の量が減少する一方、台地部の遺跡は遺物の量が増加する。特に四日市遺跡では、発掘調査で前期前業の住居址がまとまって検出されており、生活域が台地部へと移行された時期であると言えよう。本原地区的山崎遺跡でも前期の土器が多く採集されている。四日市遺跡では関西地方からの搬入品と思われる北白川下層式土器が出土しており、当時の交易圈の広さを物語る。

四日市遺跡は中期末の集落址であり、発掘調査によって、多くの住居址と遺物を検出した。加曾利E式

土器が主体となり、南信の唐草文系土器などがこれに伴う。また、典型的な柄鏡型住居址が検出されている。神川の対岸に位置する山崎や北町上遺跡なども中期の集落址である。また、傍陽の中村遺跡からも多量の遺物が出土しており、中部高地全体に言えることであるが、縄文中期は真田町域においても、まさに縄文文化が花開いた時期である。

後・晩期になると遺跡数は激減する。雁石遺跡からは後期に属する柄鏡型住居址と石棺墓が検出され、称名寺式土器や石器、魚形土製品などが出土した。なかでも魚形土製品は貴重な出土例であり、魚を模った土製品は全国的にも類例が少ない。中空で、腹にふたつの穴があり、土笛の機能も推定される。晩期では菅原の唐沢岩陰遺跡の骨角器をはじめ、四日市遺跡、雁石遺跡、境田遺跡などから佐野式土器、水式土器、石棒、耳飾などが出土している。ただし、遺物の量はごくわずかであり、岩陰以外の生活址は検出されていないことから、集落は存在しなかったか、あっても小規模のものであったと考えられる。

3 弥生時代

弥生時代の遺跡は数は少なくないものの、遺物の量が極端に少なく、大きな集落の存在は想定できない。菅原高原の遺跡は狩猟のキャンプサイトとしての唐沢岩陰、陣ノ岩岩陰などの他は、中期の栗林式や後期の箱清水式土器の破片、大型蛤刃石斧などを単独で出土する遺跡のみである。一方、台地部では本原層状地に小集落が存在した可能性があるが、これまでに多量の遺物が出土したという記録はない。箱清水式土器の破片や磨製石鎌等が散在するのみで、水稻耕作を基盤とする集落は存在していなかったのではないかと考えられる。特記すべきは群馬県境の鳥居越で、群馬県に分布する樽式土器とみられる小型の甕が出土していることである。土器胎上も上田小県地域のものと違い、群馬方面から搬入された個体とみられる。鳥居越が当時の交通路として重要な役割を果たしていたことがうかがえる資料である。

4 古墳時代

弥生時代後期の遺物はわずかに採集されるものの、古墳時代にはいると、町内に生活の痕跡はほとんどみられない。

古墳時代の集落が大きく展開するのは、後期になってからである。後期古墳の典型である本原の藤沢古墳群や町下古墳群と時期的に一致する。かつて本原地区には後期の小円墳が30基以上存在していたとみられるが、現在、その姿を確認できるものは少ない。しかし、九久館古墳群1号墳や矢倉城古墳では、勾玉や金環、切子玉などの出土品が保管されており、貴重な情報を提供している。

また、発掘調査により、四日市遺跡や境田遺跡で多くの住居址や遺物が検出され、新知見が増えている。遺物は鬼高式土器の時期を中心であり、四日市遺跡では良好な住居址1軒の土器セットが、境田遺跡では石製模造品（白玉）や鉄製手斧が出土している。

5 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は四日市、境田、山崎、宮ノ前、山本畠遺跡等が知られている。

四日市遺跡では発掘調査で集落址と鍛冶製鉄遺構が検出されており、出土遺物からおおよそ10世紀代の集落址とされる。土師器、須恵器のほか、灰釉陶器、綠釉陶器、鉄製品が出土し、なかでも、「田上」、「万」の墨書きがある土師器の环、皿が数点、住居址からまとめて出土しており、注目される。境田や山崎遺跡



第6図 町下古墳群5号墳、甕の発見状況

でも墨書き土器が出土しており、山崎では「寺」の墨書きが確認されている。四日市や宮ノ前遺跡では「工」「井」の刻書き土器が出土している。

山本畠遺跡は昔平高原に所在する高地性の小集落である。発掘調査では2軒の住居址が検出されたが、調査区域外にまだ存在する可能性がある。特徴的なのは須恵器の耳皿が住居址内で出土したことであり、何らかの祭祀に関わる行為が住居内で行われたらしい。高冷地のため、冬期に生活していた場所とは考えにくく、春～秋期のみの生活址としてとらえられる。

6 中世

真田町は真田氏発祥の地として知られている。真田幸隆や昌幸に関わる遺跡が多く存在するが、真田氏館跡と日向畠遺跡が唯一の発掘調査事例で、特に山城に関しては、これまで考古学的な検討はほとんど行われていないのが実情であった。

町内の城館跡は、山城跡が11ヶ所、館跡は推定地を含めて6ヶ所を確認している。

山城はこれまで、「真田氏本城」、松尾城・遠見番所、天白城、「横尾城」、「内小屋城」、根小屋城、洗馬城をまとめて、「真田氏城跡群」という呼称を与え、それぞれが密接した関係をもって存在していたと考えられてきた。今回の調査結果等を踏まえて、再検討したい課題である。松尾城の遠見番所や鬼ヶ城、猿ヶ城は物見の施設と考えられる。また、打越城と長尾城は今回の調査で新発見された山城で、段郭や堀切に比較的古い要素がみられる山城である。弥六城には見事な石垣や土塁が残っているが、城の性格については不明な点が多い。(注:「」で囲んだ山城は今回改名したものである。)

館跡は県史跡に指定されている真田氏館跡の他、山家、上野屋敷、日向、萩、上洗馬の館跡推定地がある。山家の館跡は、山家神社に隣接しており、館跡に推定し得る遺構や伝承が残る。この館跡は真田幸隆の館跡とする考え方が支持されている。

日向畠遺跡は日向の館跡推定地に近接し、発掘調査で宝鏡印塔や五輪塔が出土した。墓塔として使用されたもので、焼骨が納められたものもあった。室町時代から戦国時代のものと推定され、幸隆以前の真田氏の墳墓ではないかとの見方がされている。町内には他にも耕霊寺や横尾、竹室などで宝鏡印塔や五輪塔が出土している。

真田町では中世の埋蔵鉄が3例、確認されている。上田市域も含め、真田町周辺ではこういった埋蔵鉄が出土したという報告が多い。館跡、神社周辺、市の近くの河川敷からの出土で、発見された枚数は200～2,000枚と幅があり、埋めた理由もそれだと考えられるが、中世のある特定の時期に埋蔵したものと推定される。



第7図 松尾城跡と真田山城(真田氏本城)跡



第8図 山家の館跡推定地(中央の石壇上)

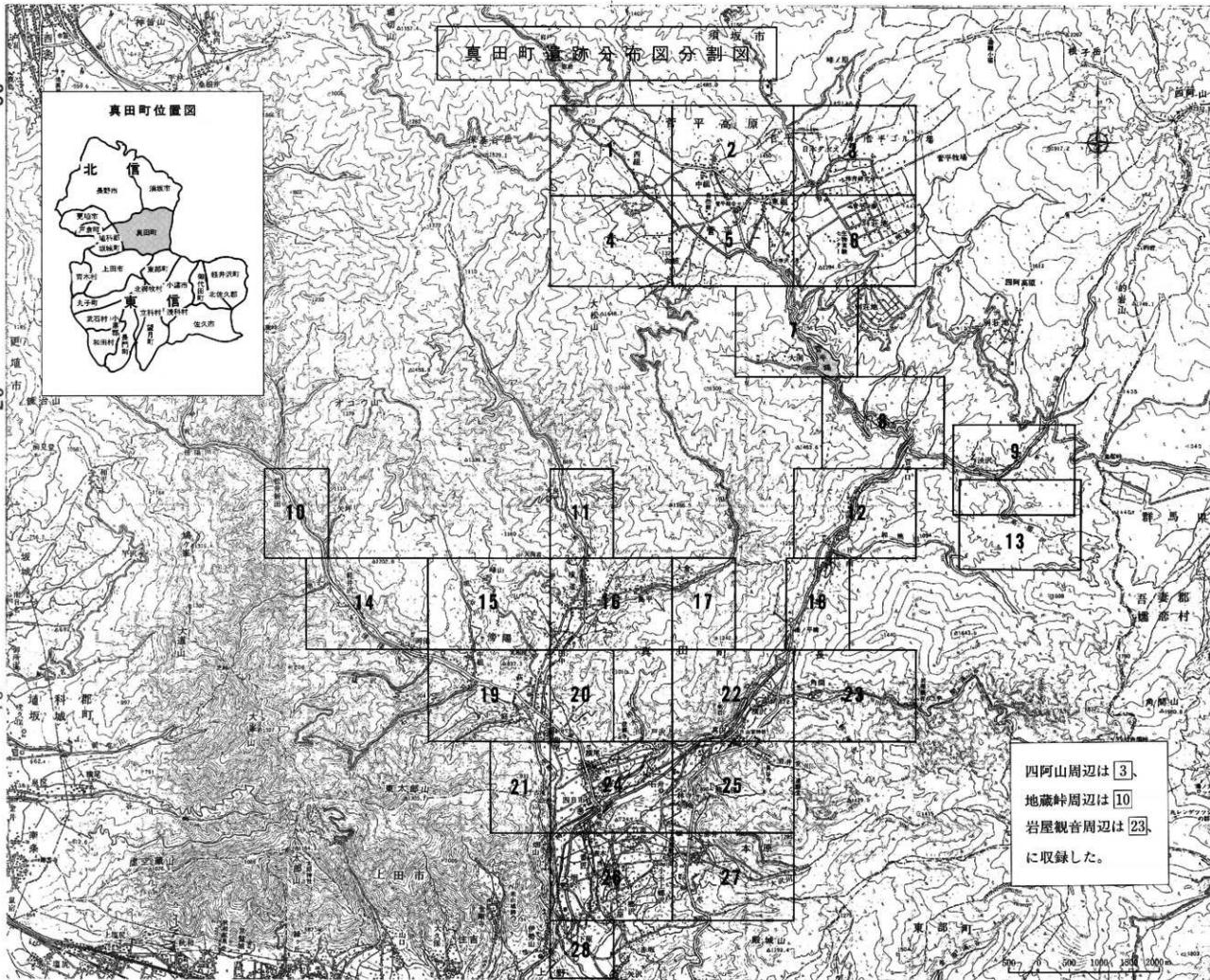
30

20

10

真田町遺跡分布図分割図

真田町位置図



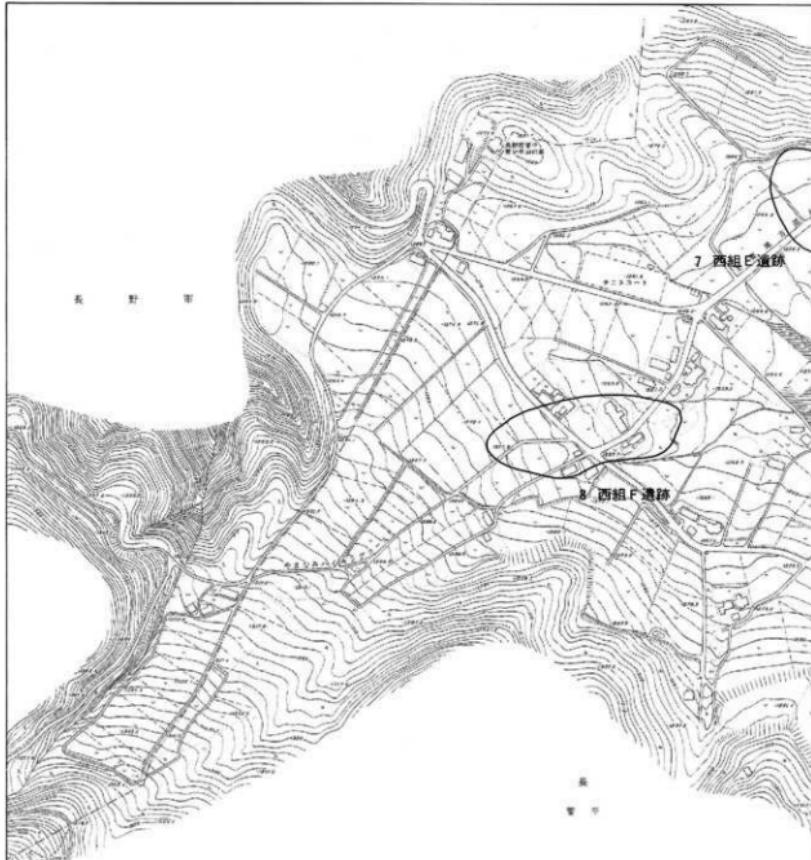
四阿山周辺は [3]
地蔵峠周辺は [10]
岩屋観音周辺は [23]
に収録した。

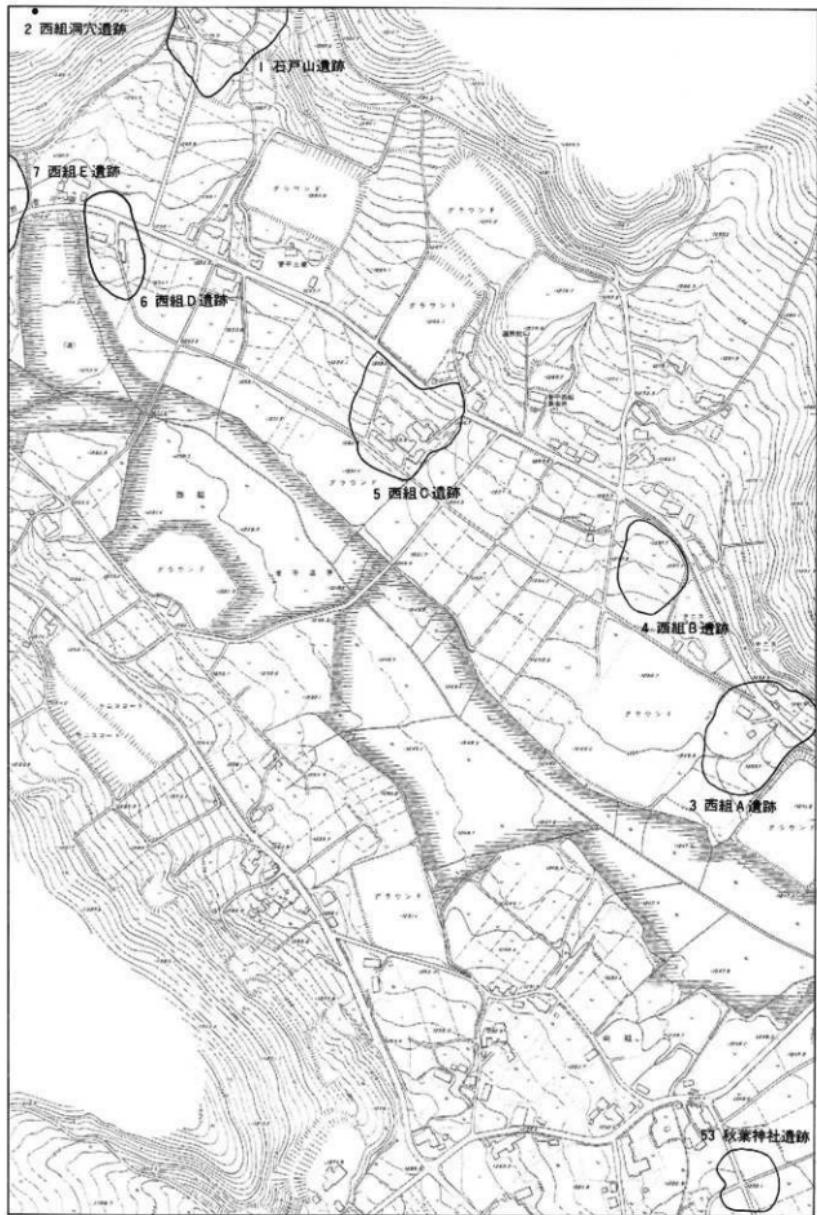
第3章 調査の結果

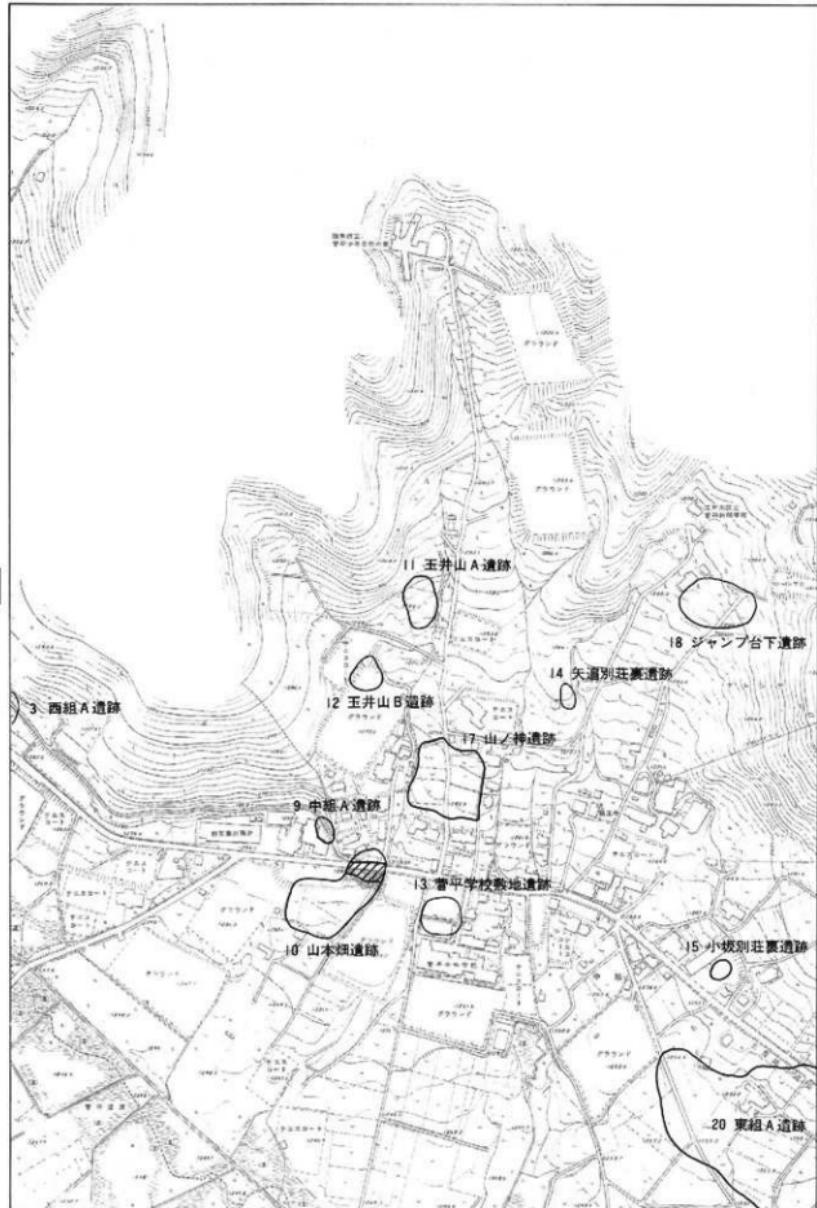
I 遺跡分布図

遺跡分布図 分割図

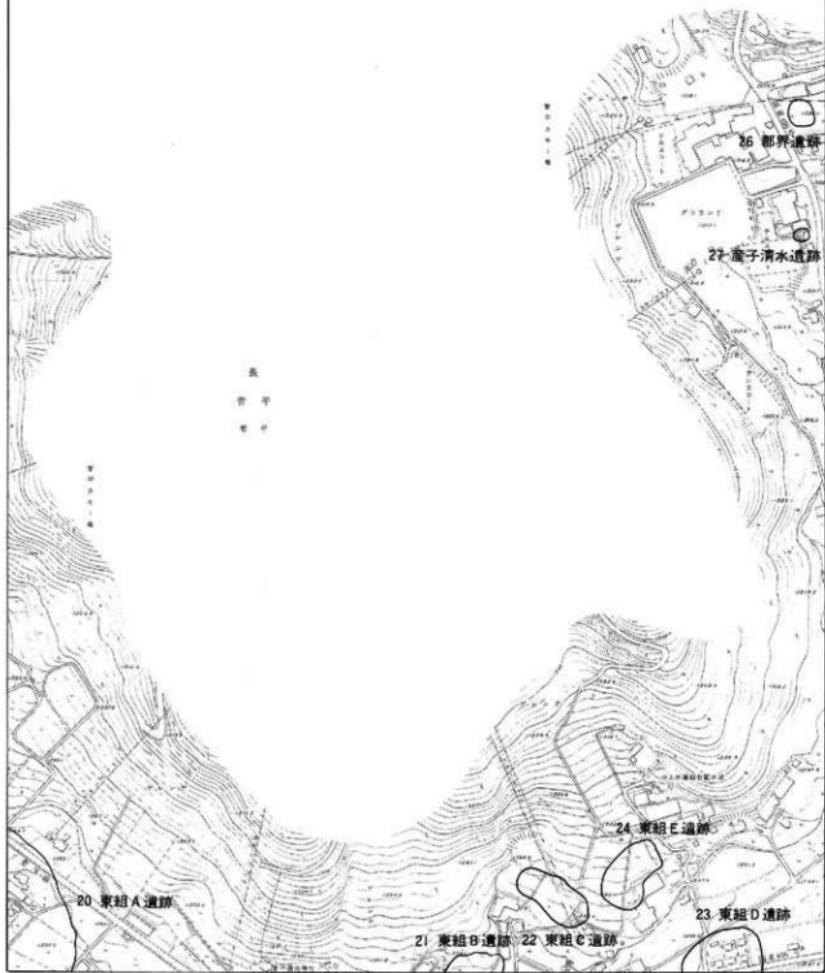
- 1 (長) 菅平・西組、向組
- 2 (長) 菅平・中組、東組
- 3 (長) 菅平・東組/十ノ原
- 4 (長) 菅平・向組
- 5 (長) 菅平・向組、東組/十ノ原
- 6 (長) 十ノ原
- 7 (長) 十ノ原/大沢
- 8 (長) 十ノ原(菅平口) / 渋沢
- 9 (長) 渋沢
- 10 (傍陽) 松井新田/地蔵峠
- 11 (傍陽) 大良/上横道
- 12 (長) 大日向
- 13 (長) 渋沢(高屋沢)
- 14 (傍陽) 入軽井沢/岡保
- 15 (傍陽) 中組/峰山/田中
- 16 (傍陽) 田中/下横道/中横道/上横道/穴沢/三島平
- 17 (傍陽) 大倉
- 18 (長) 大日向
- 19 (傍陽) 岡保/中組/大庭/萩/田中/曲尾
- 20 (傍陽) 田中/曲尾(長) 横尾
- 21 (傍陽) 曲尾(長) 横尾
- 22 (長) 真田/横沢/角間
- 23 (長) 角間
- 24 (傍陽) 曲尾(長) 横尾/四日市/つくし/戸沢/石舟/十林寺/(本原) 荒井/竹室/下塚
- 25 (長) 石舟/真田/十林寺/下塚/赤井
- 26 (本原) 荒井/竹室/小玉上郷沢/下郷沢/上原/表木/中原/番匠/大畑/町原/出早
- 27 (本原) 小玉上郷沢/赤井
- 28 (本原) 下原/南原





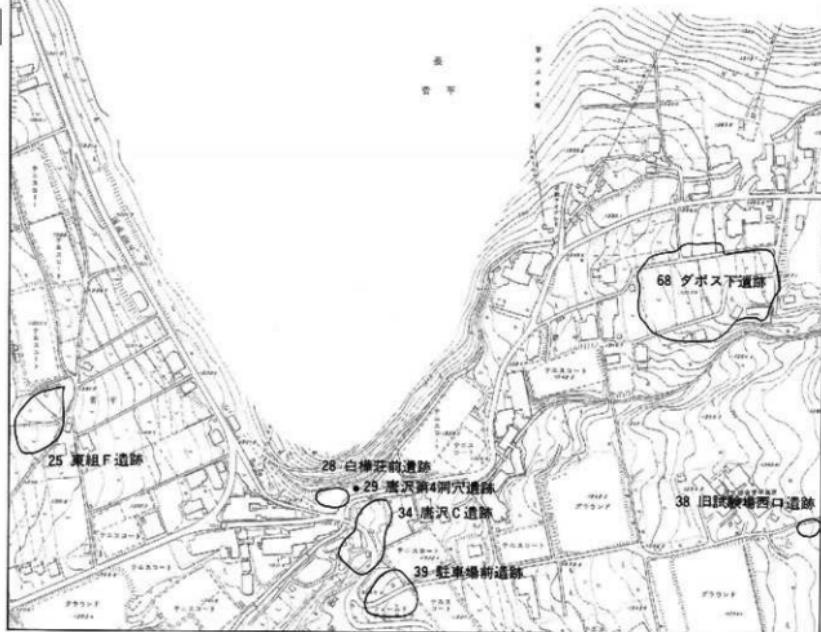


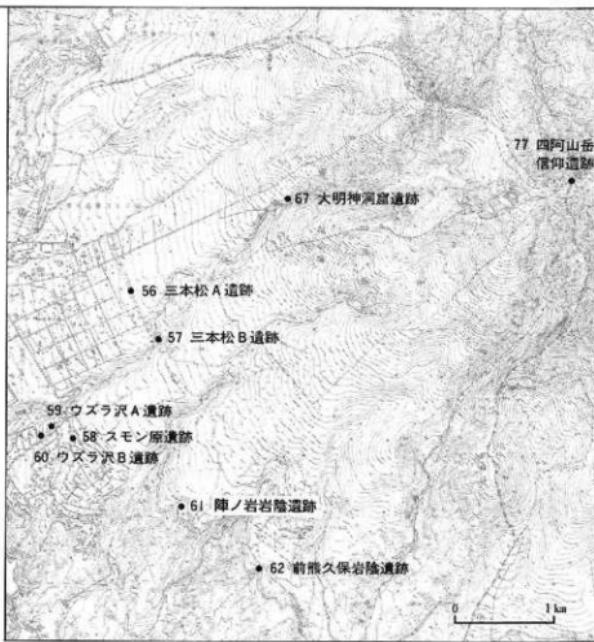
須坂市



3

頃 坂 街

萱
平



(長)
菅平・向組

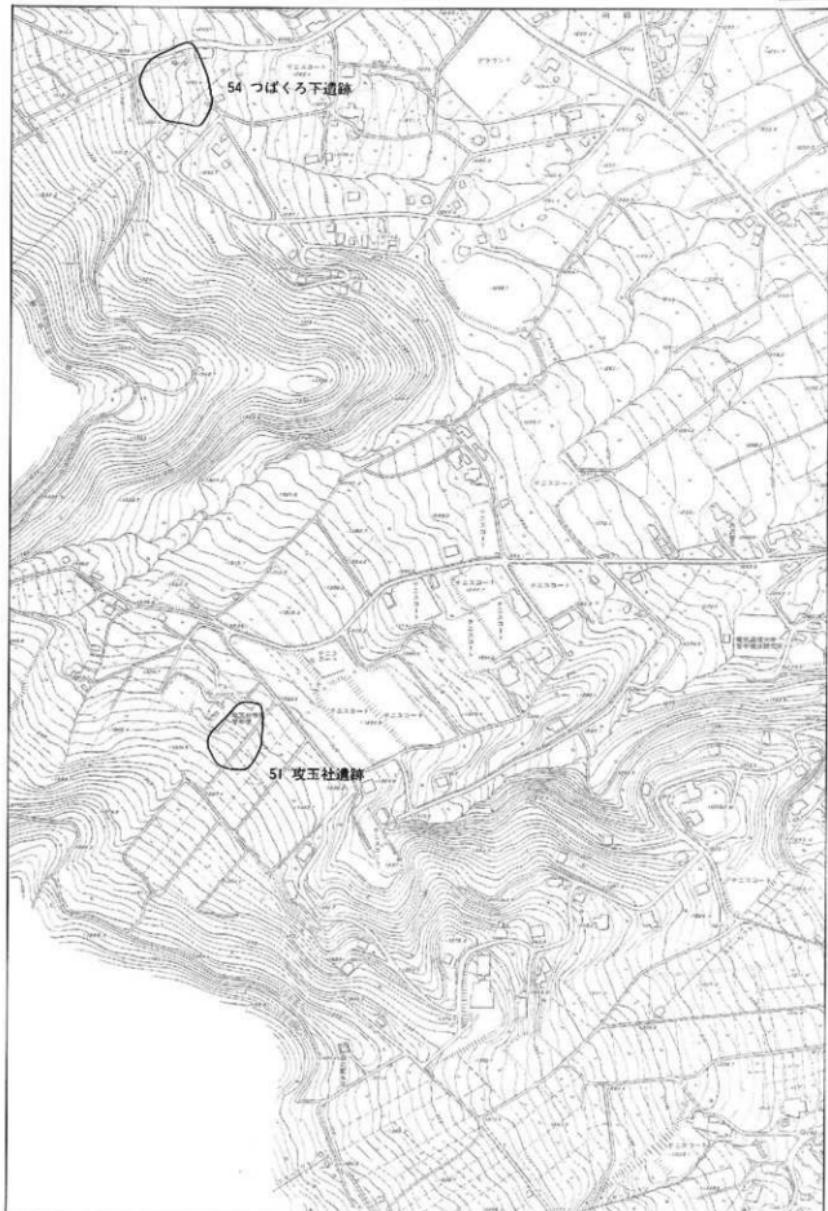


云
菅平

1

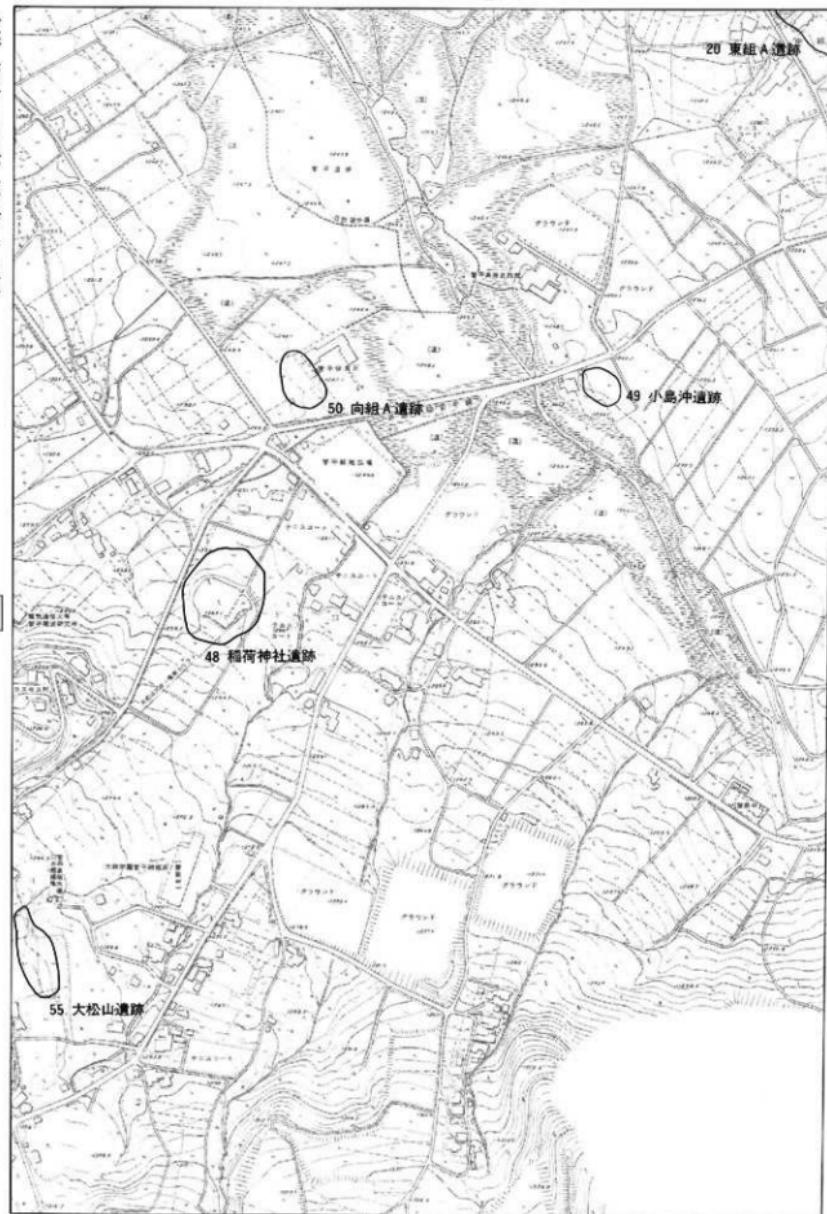
4

5



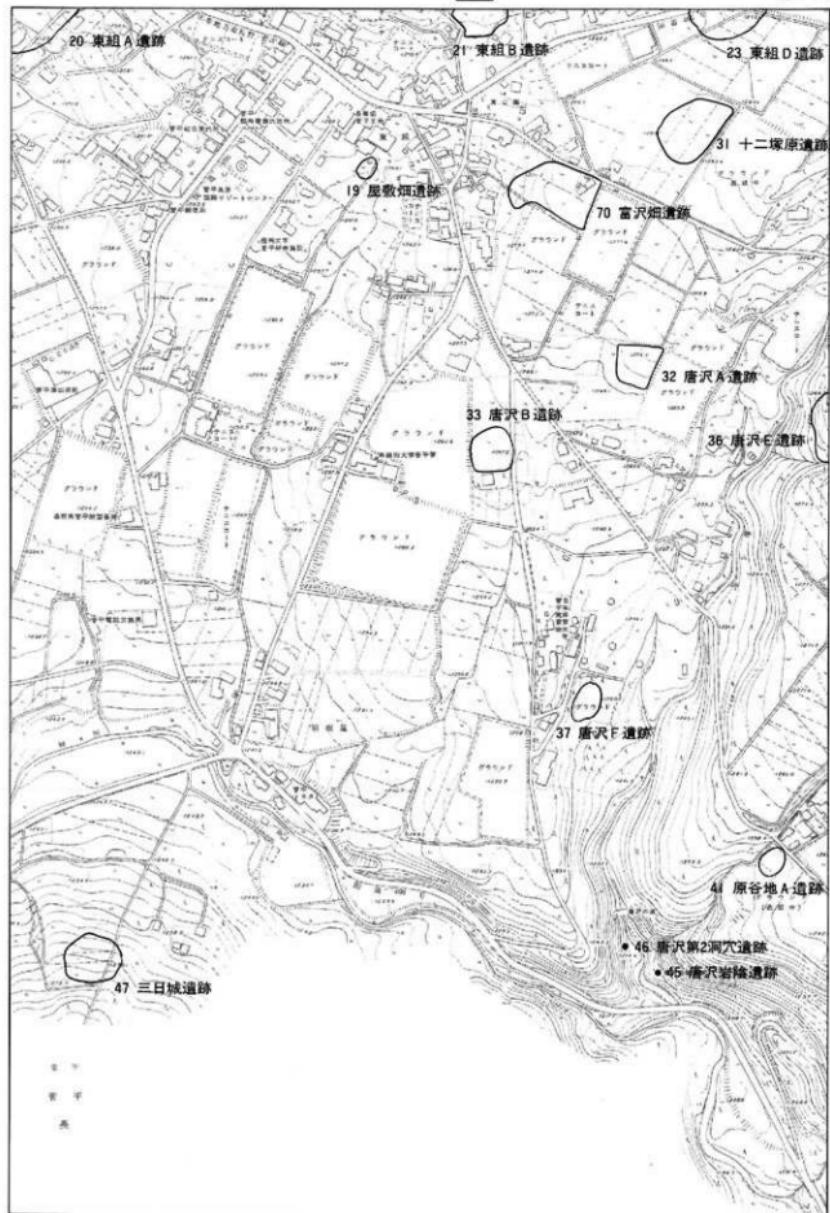
0 1 300m

(長) 菅平・向組、東組／十ノ原



2

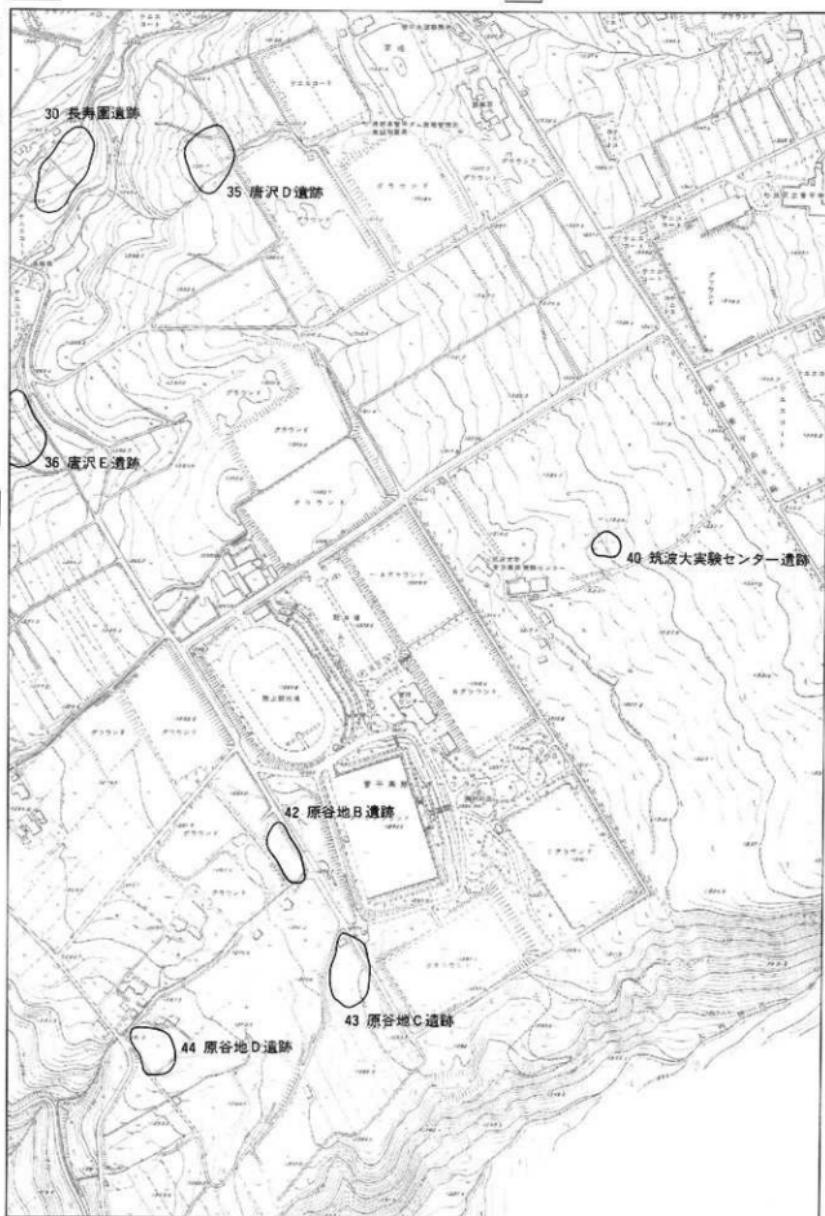
5

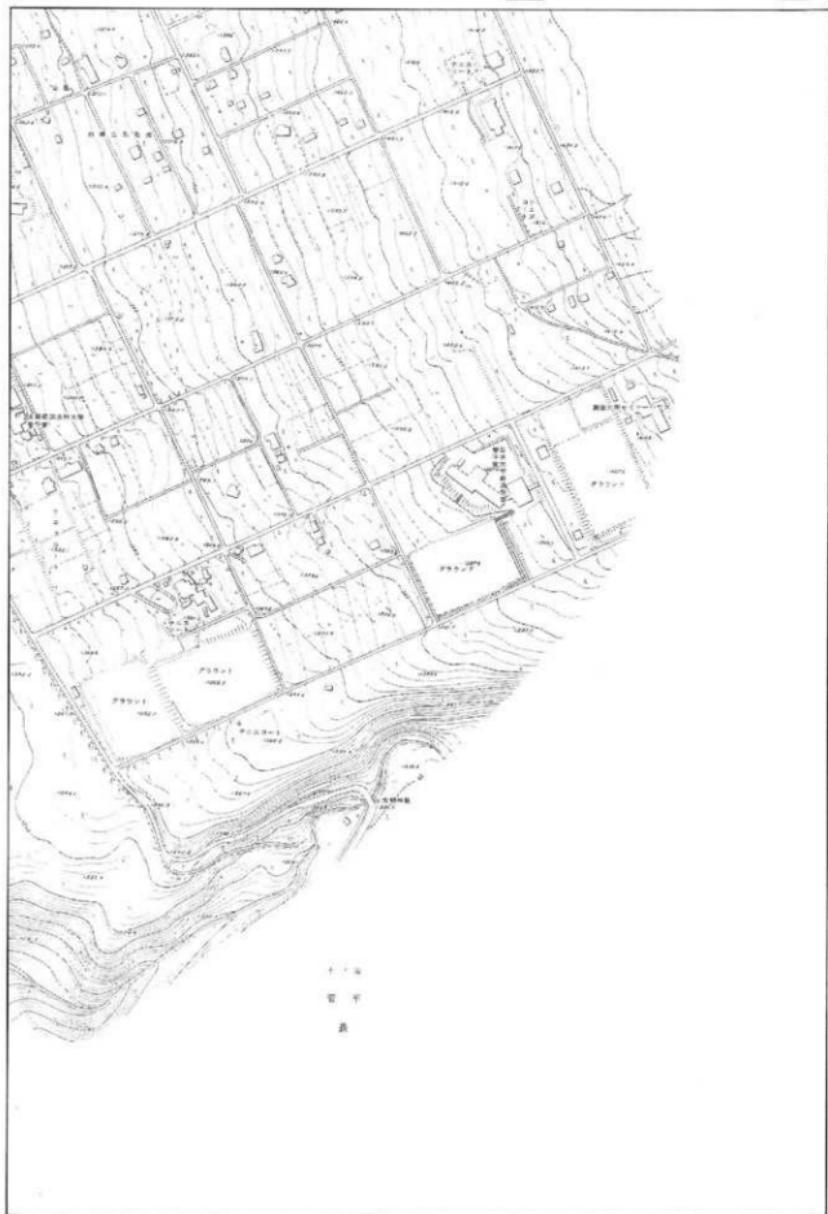


7

0

300m





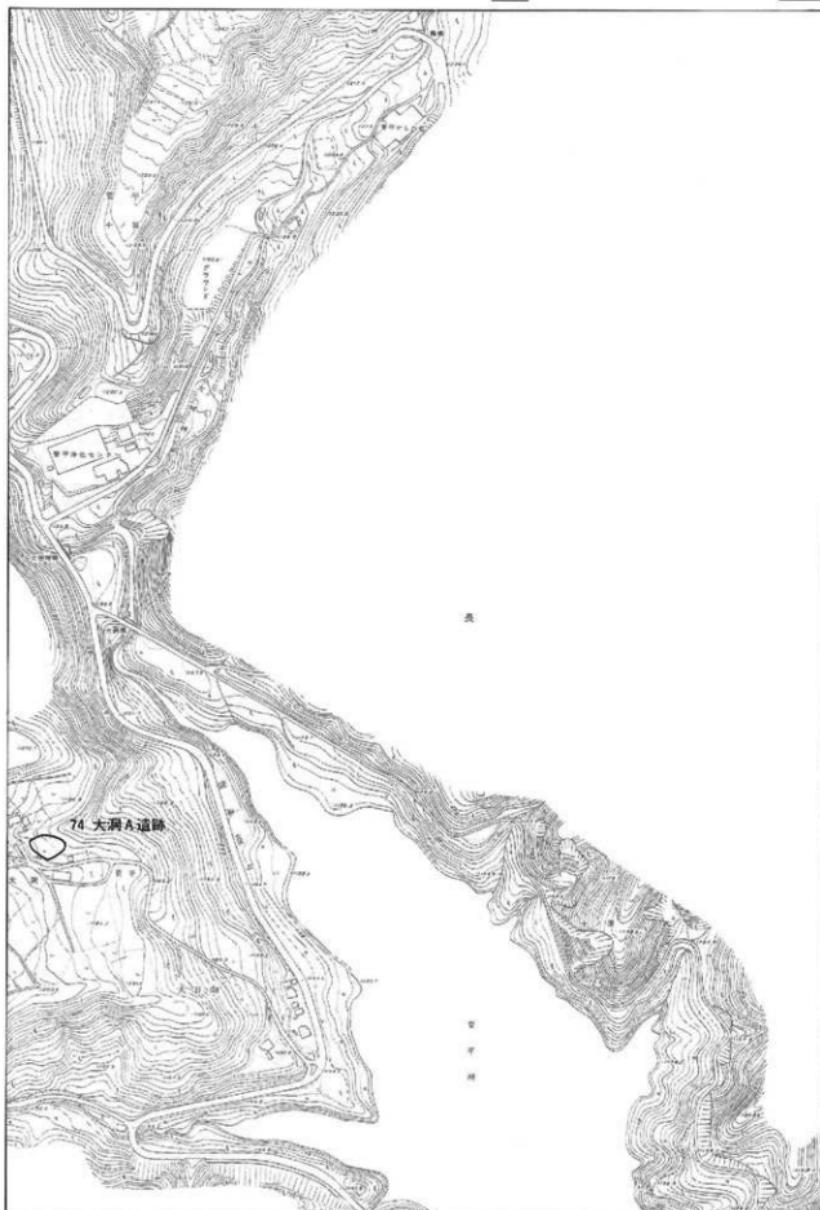
0 300m

(長) 十ノ原／大洞



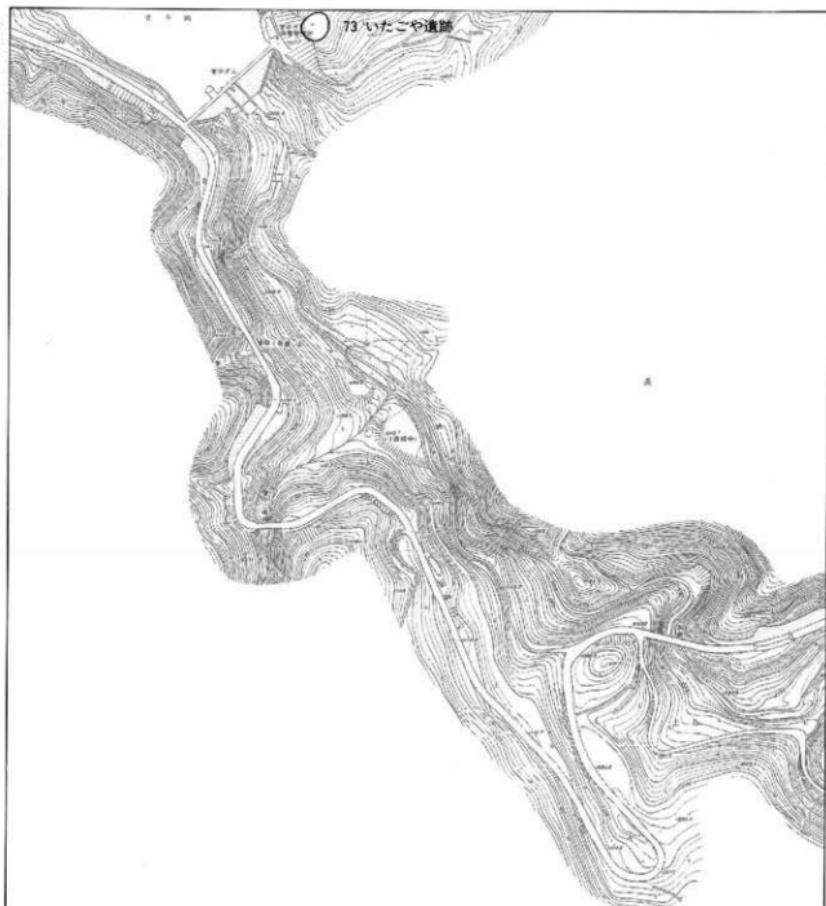
6

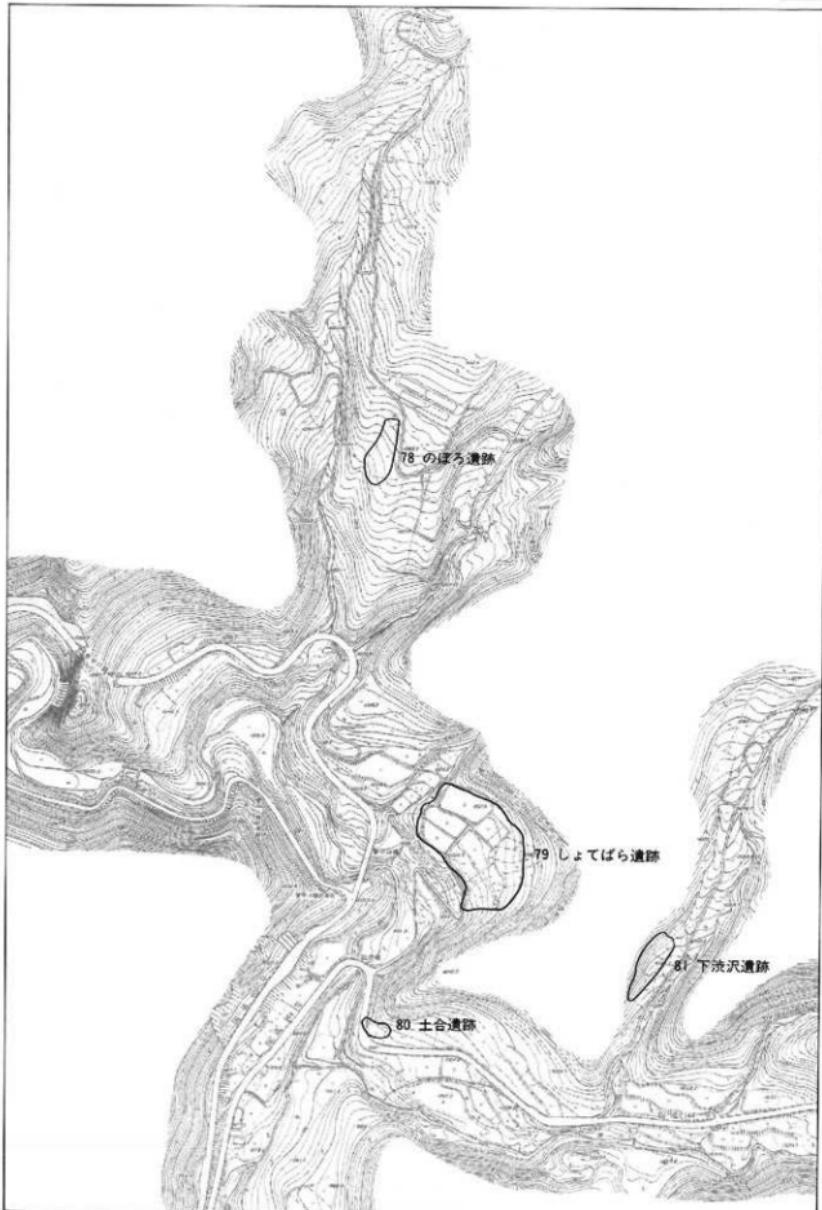
7

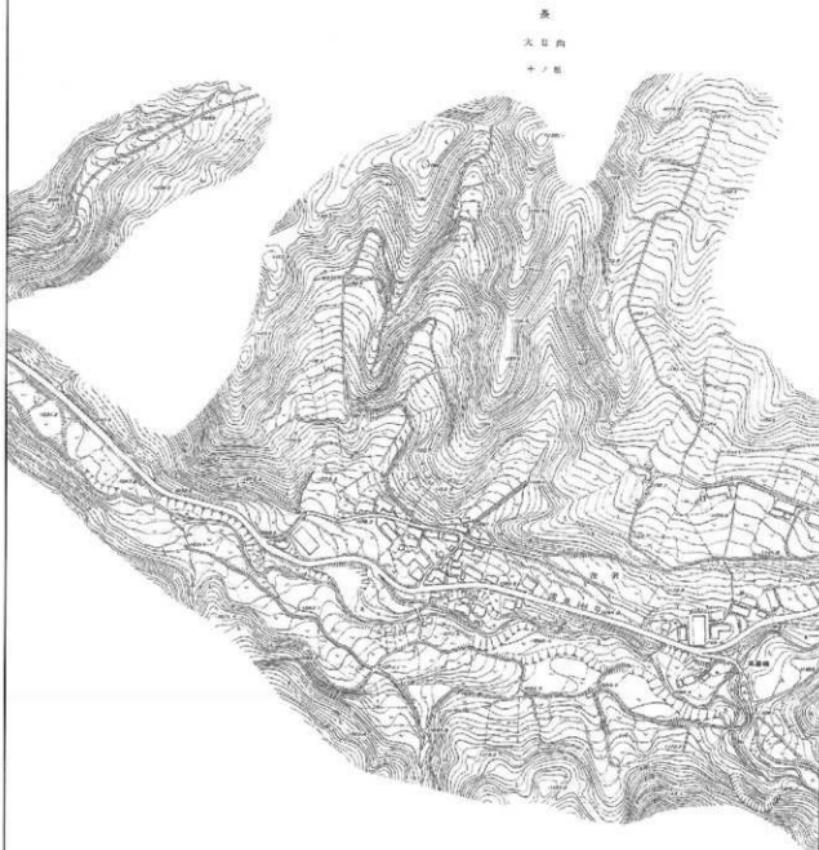


8

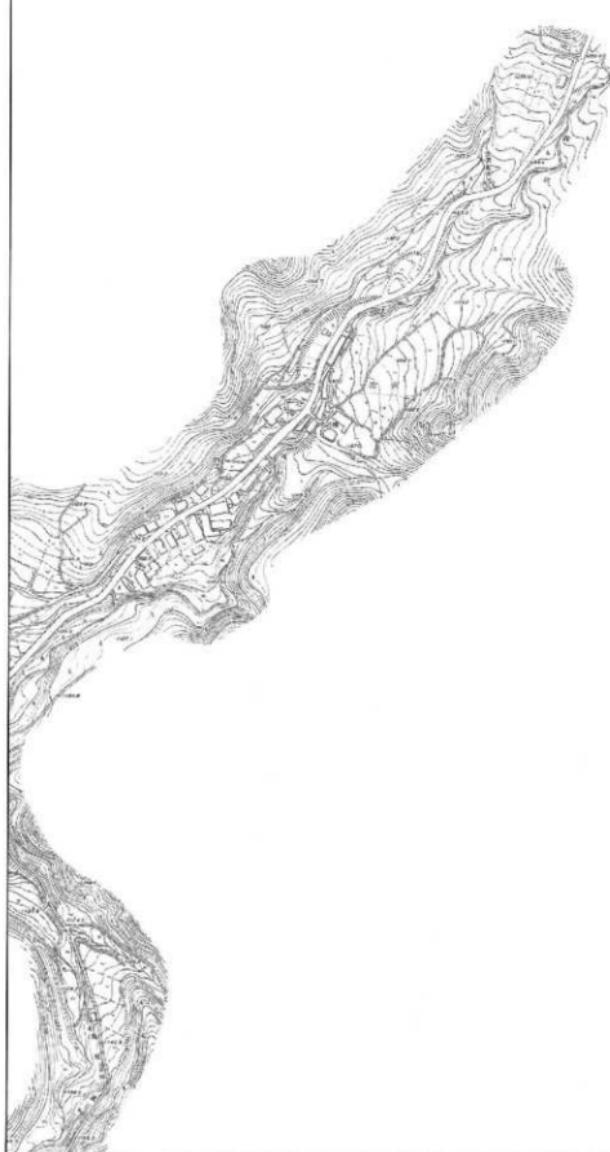
(長)十ノ原(菅平口)/渋沢







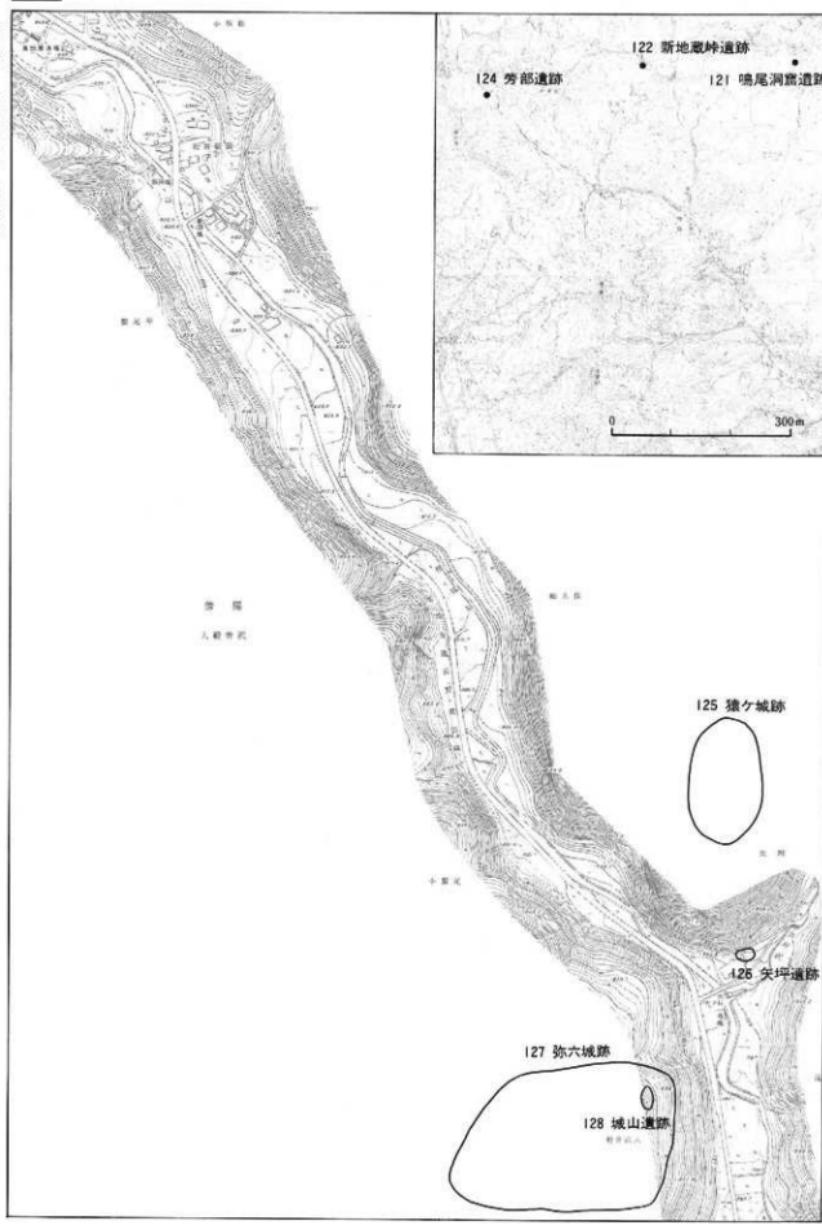
北
大日向
千ノ瀬



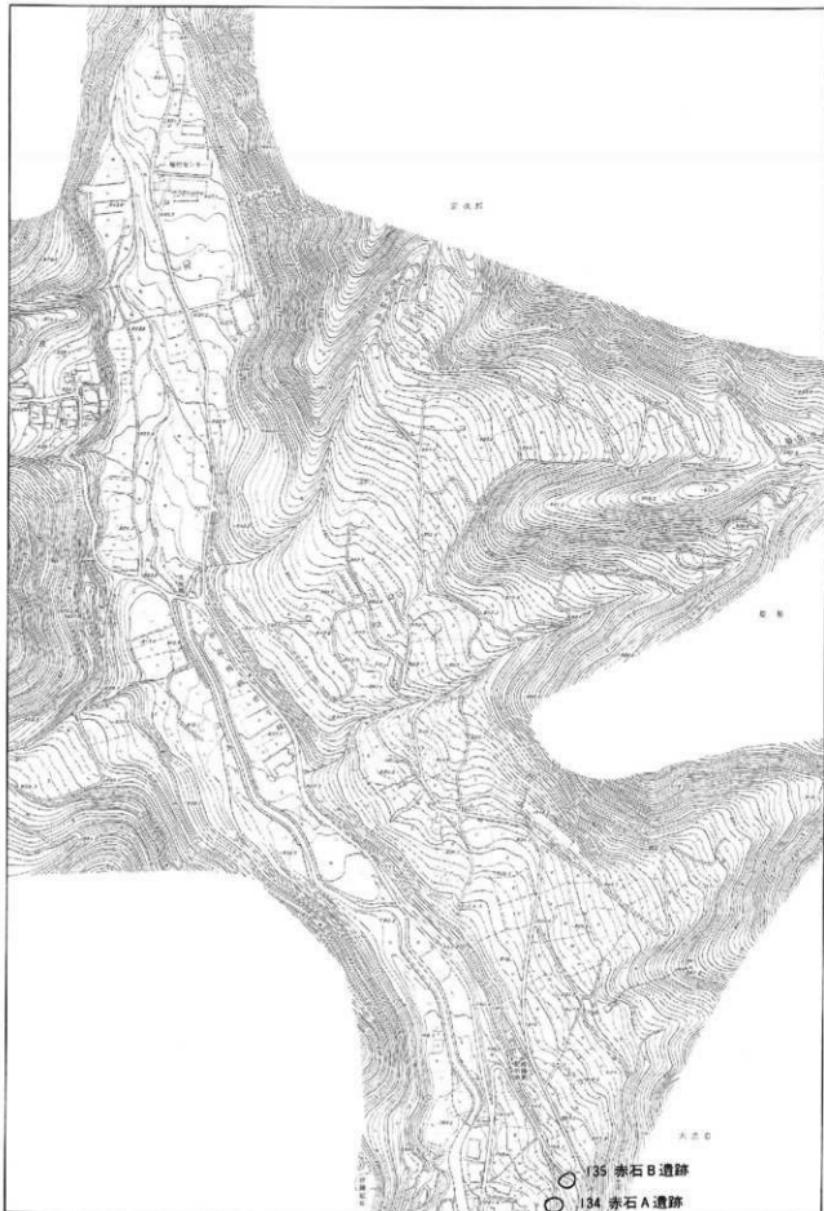
13

0

300m

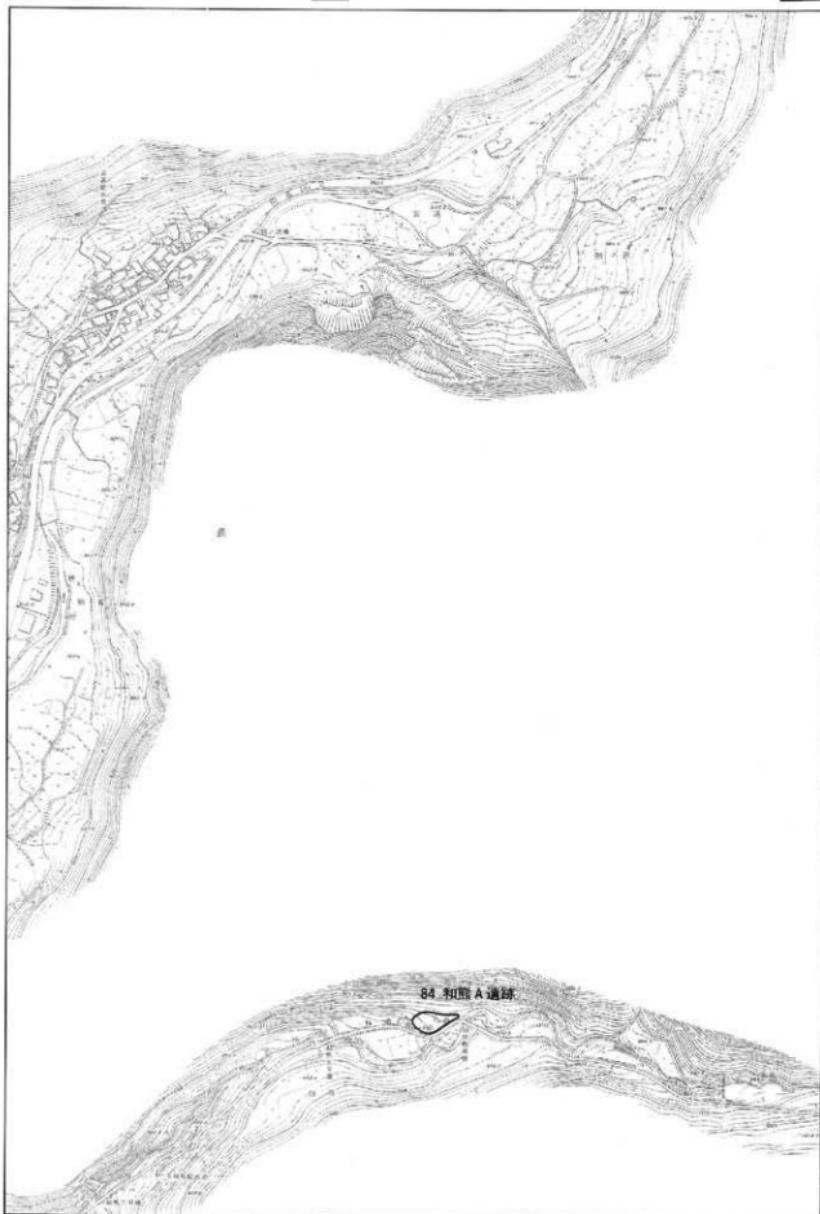


0 300m



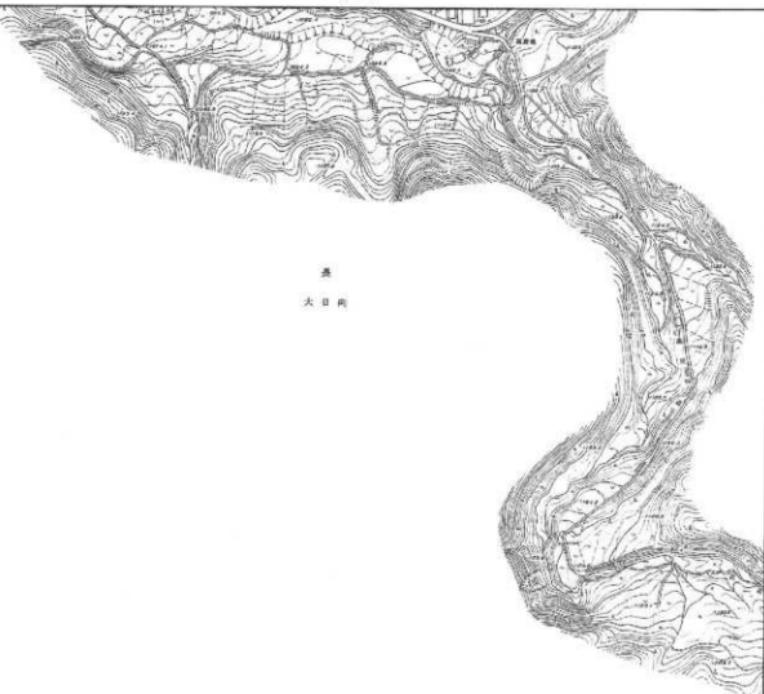
(長
大日向)





0 300m

(長) 渋沢(高屋沢)

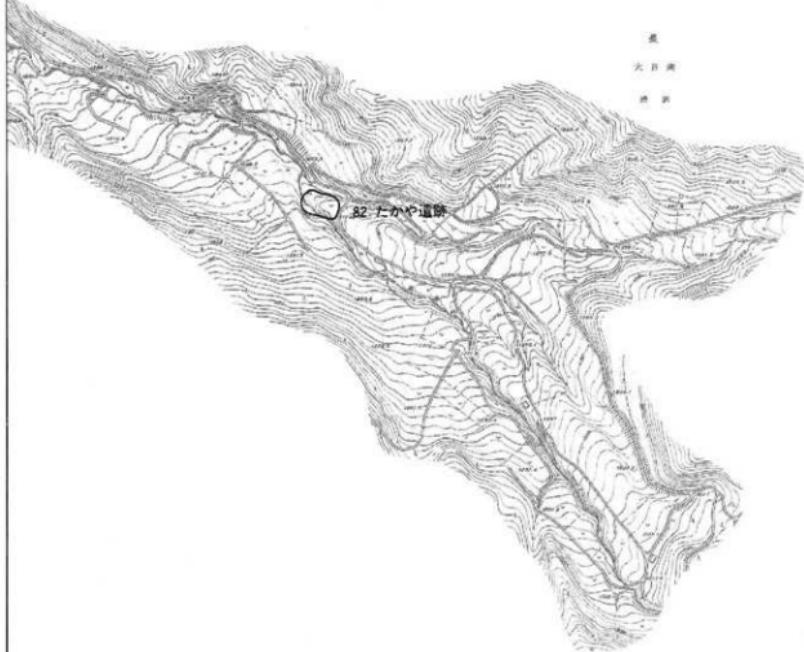




たかや遺跡出土土器（長小学校所蔵）

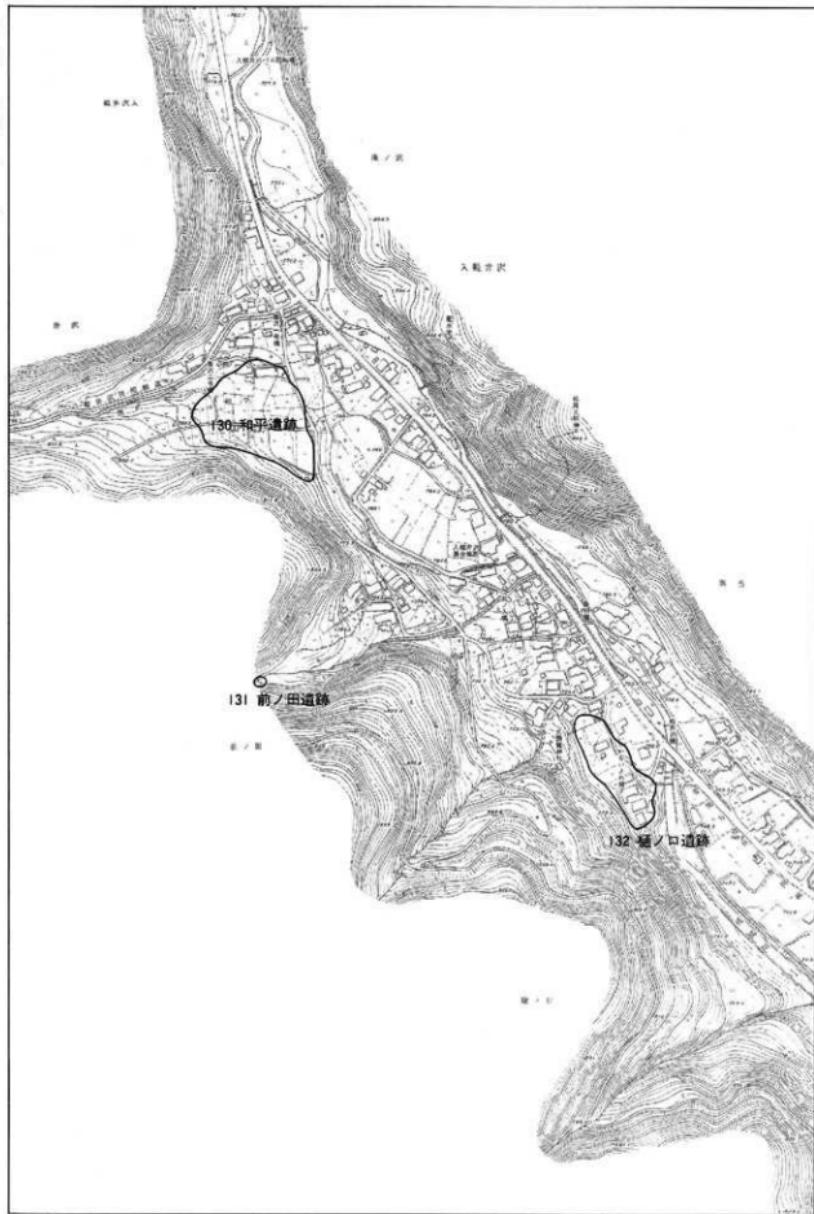


たかや遺跡の現況



0 1 2 3 300m

(傍陽) 入軽井沢／岡保

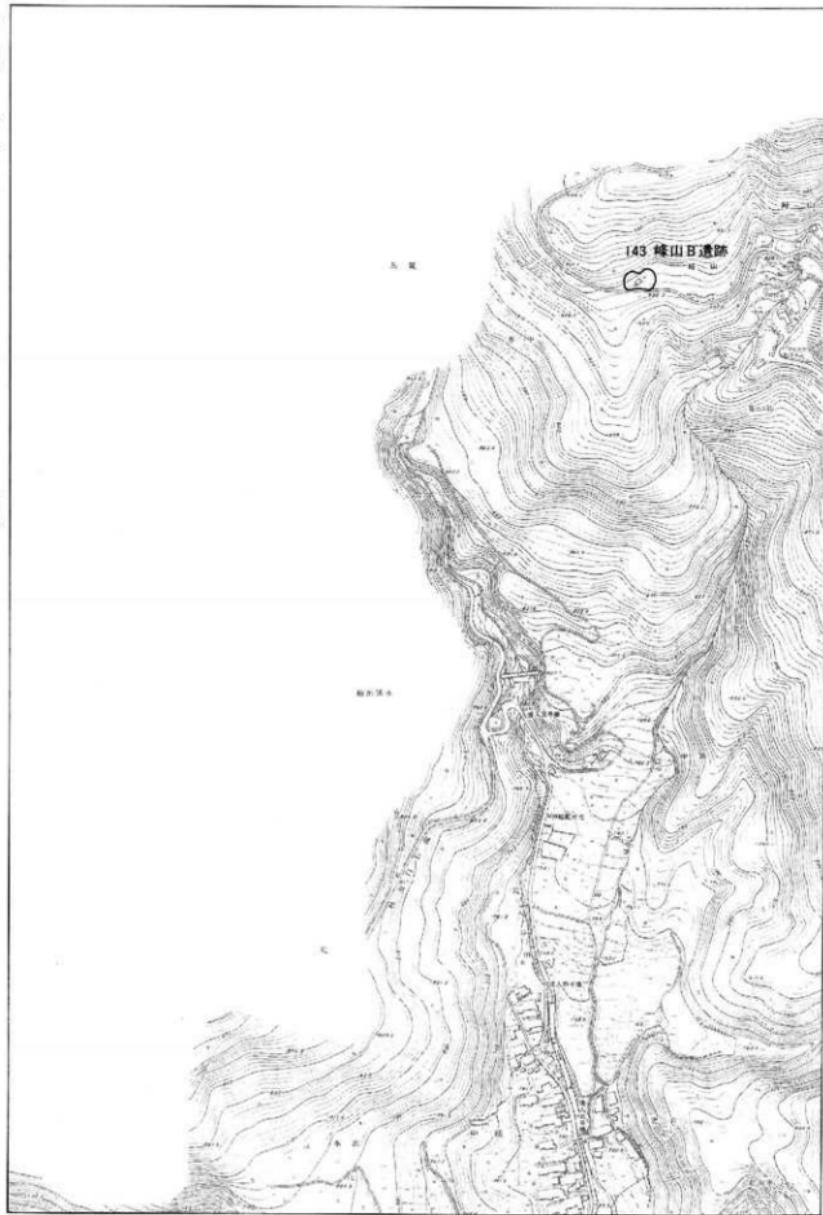


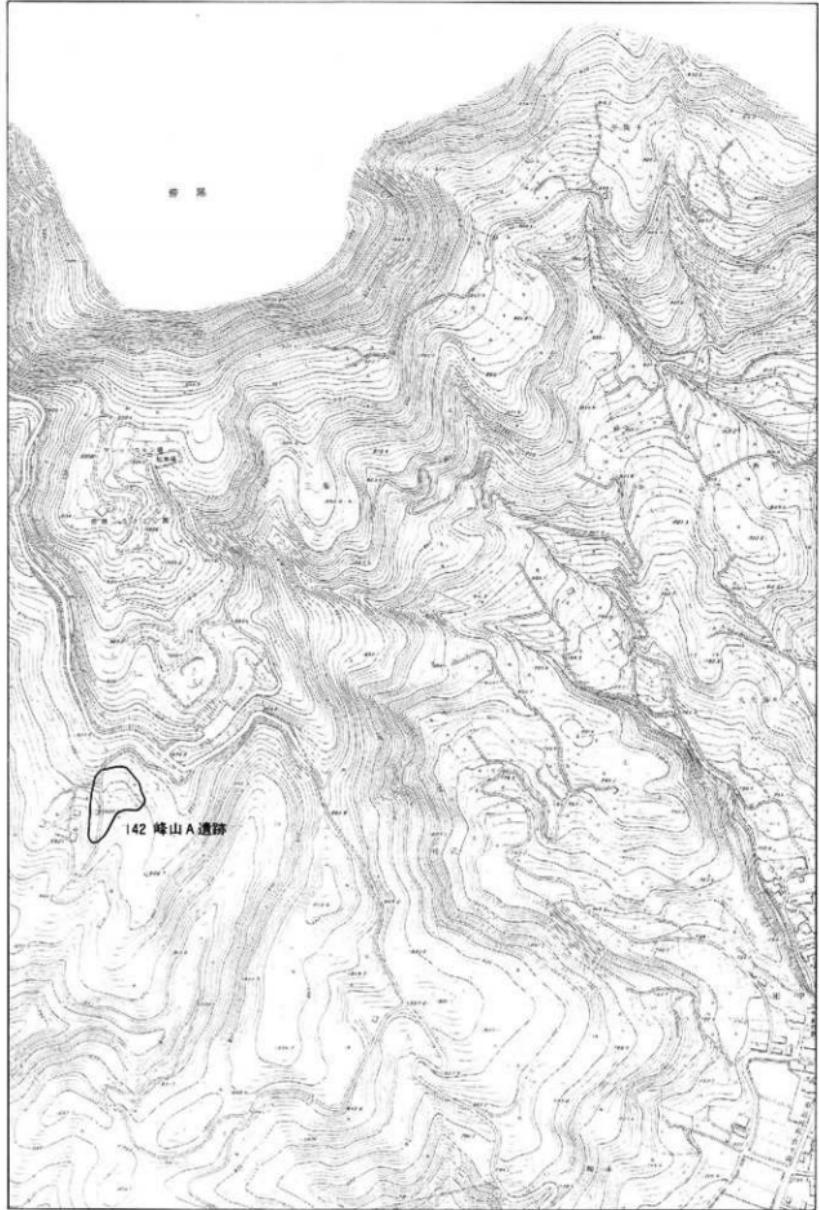


備註



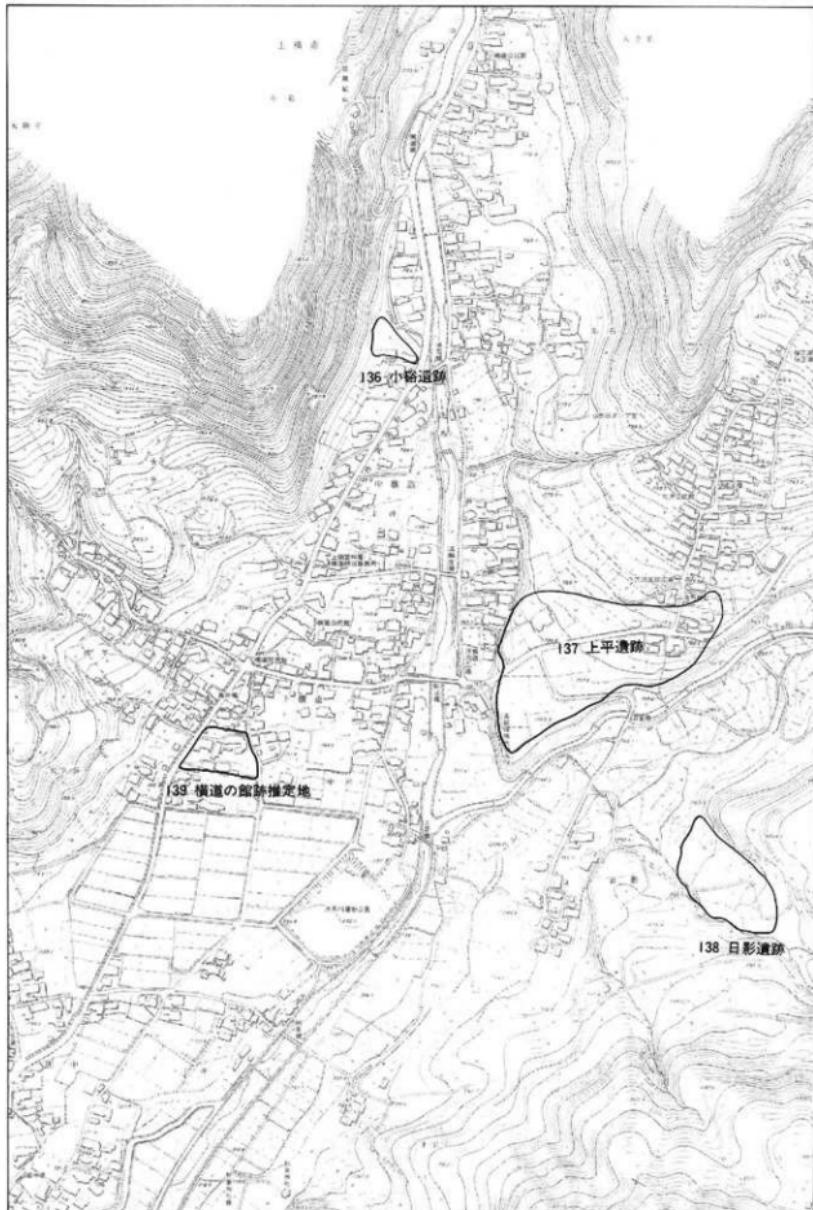
0 1 300m

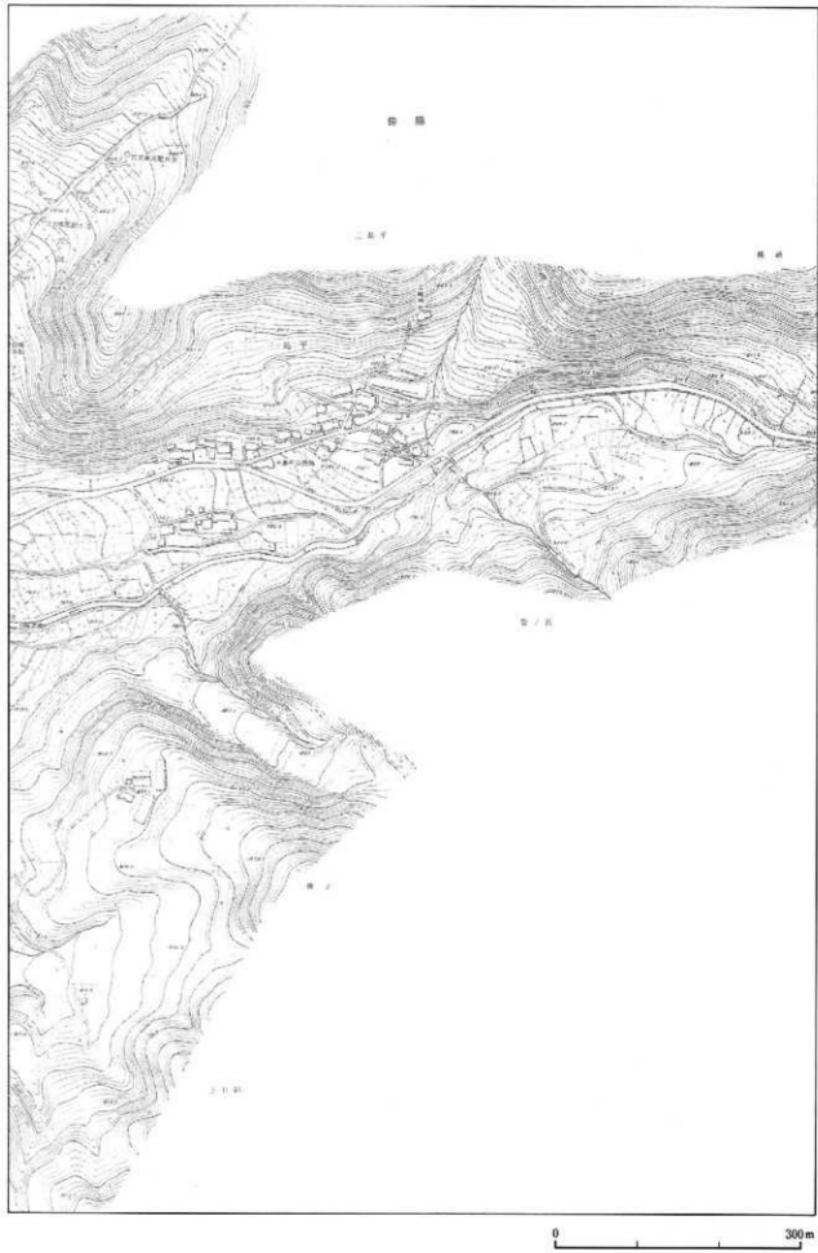


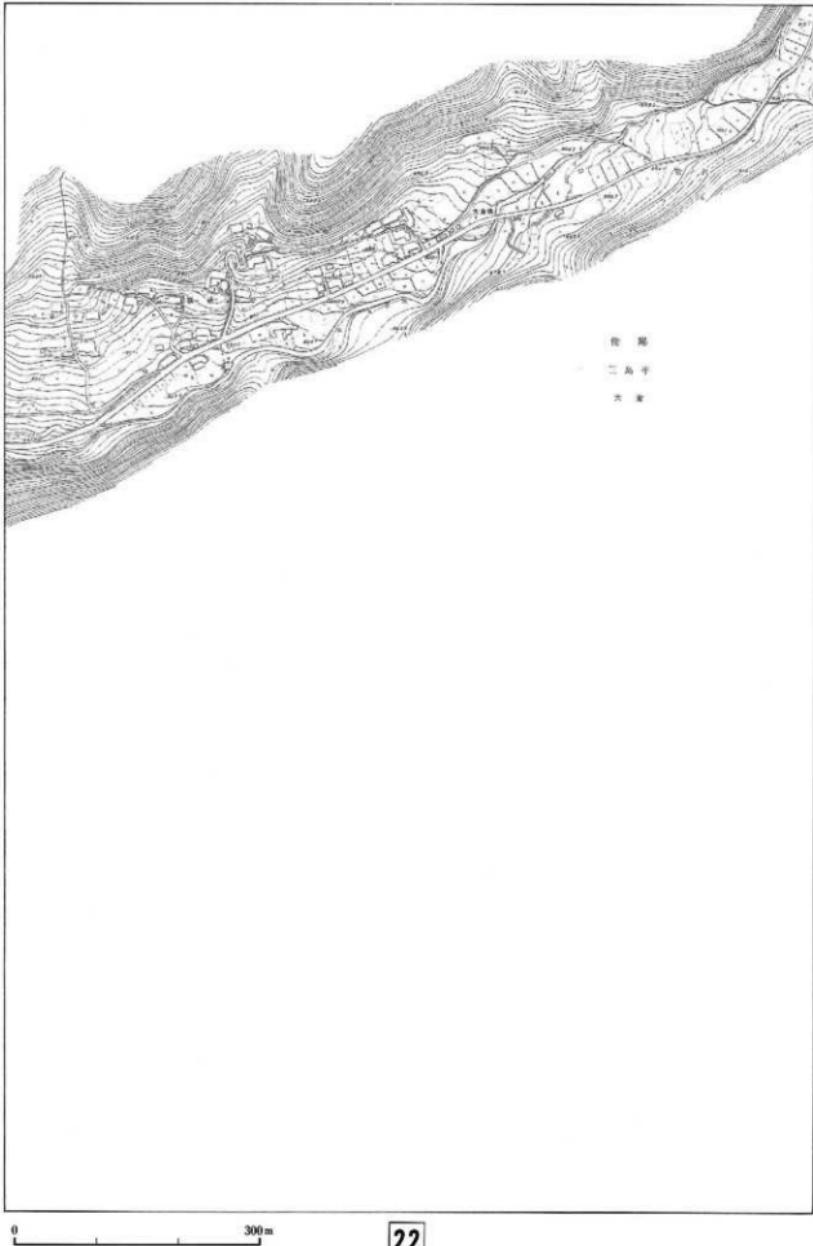


16

(傍陽) 田中／下横道／中横道／上横道／穴沢／三島平

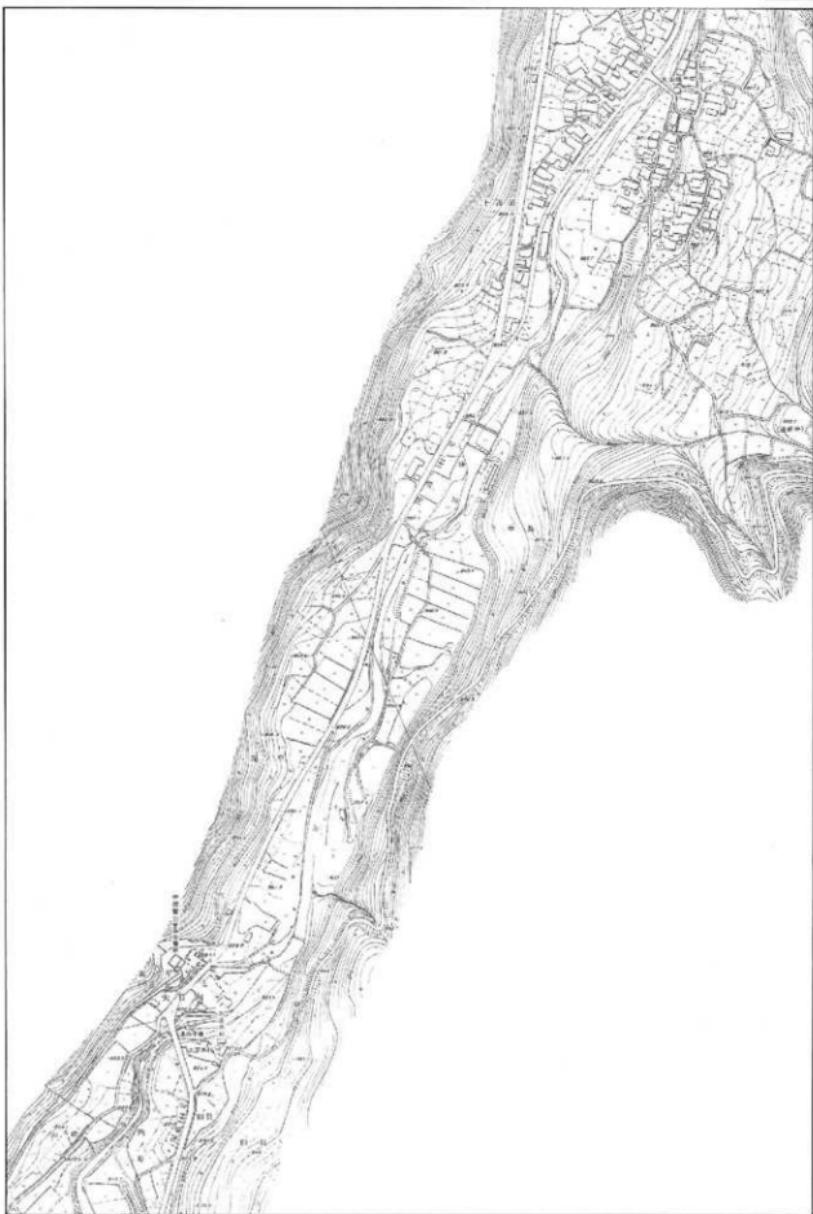






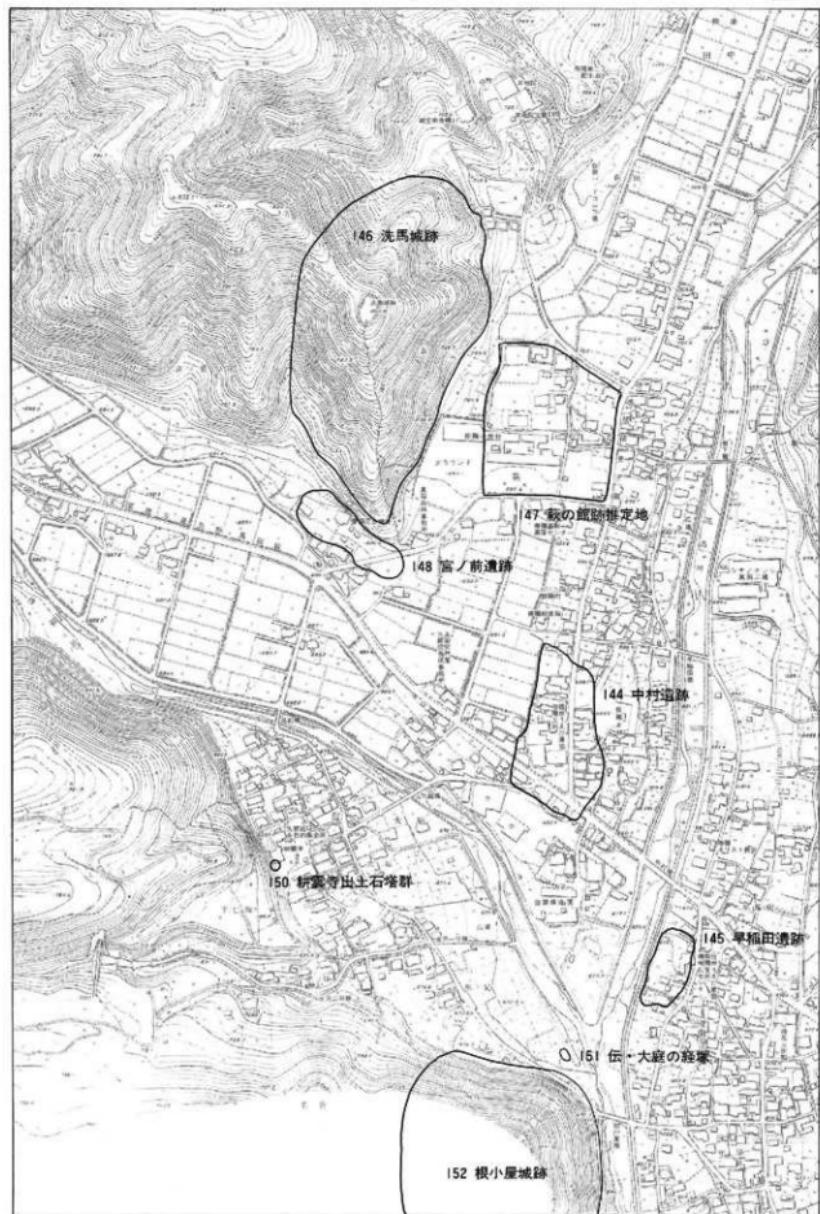
0 300m

(長) 大日向

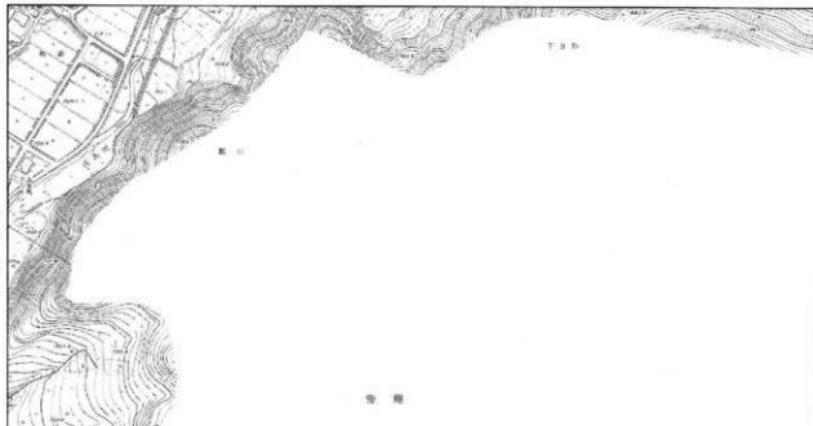


(傍陽) 岡保／中組／大庭／萩／田中／曲尾





(傍陽) 田中／曲尾
(長) 横尾



0 300m

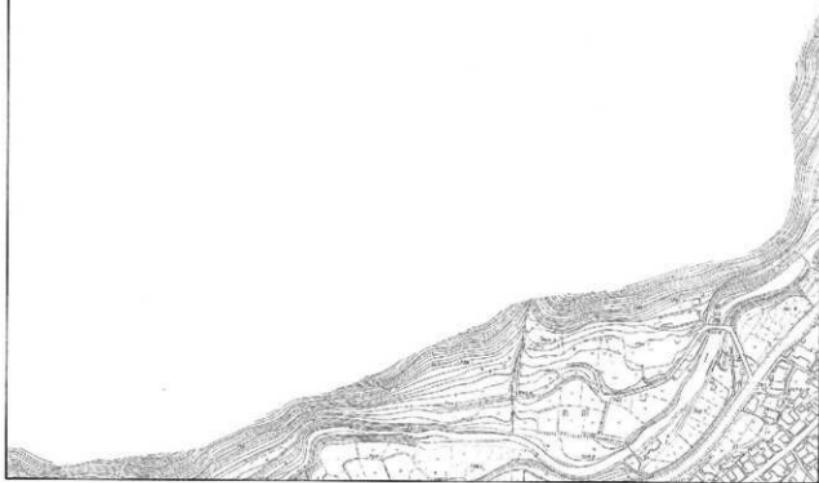
(傍陽) 曲尾
(長) 橫尾

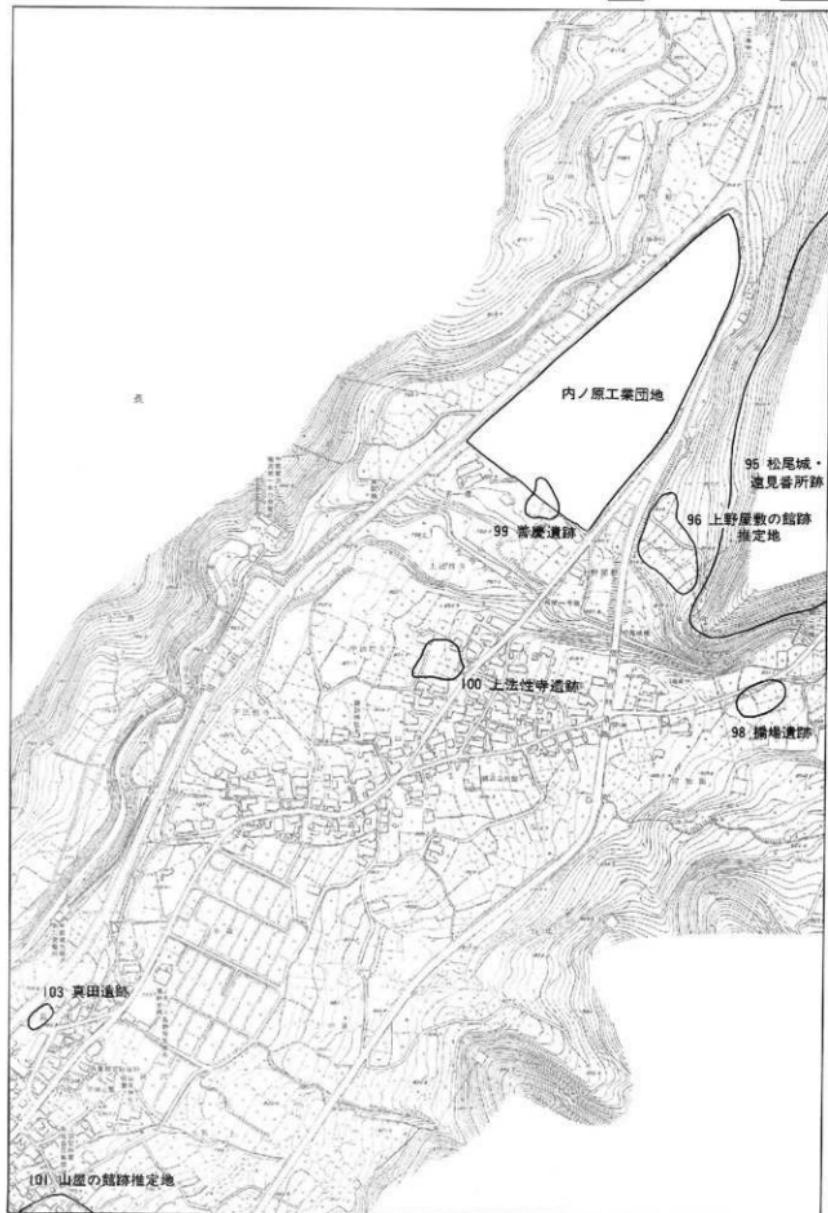
152 楊小屋城跡

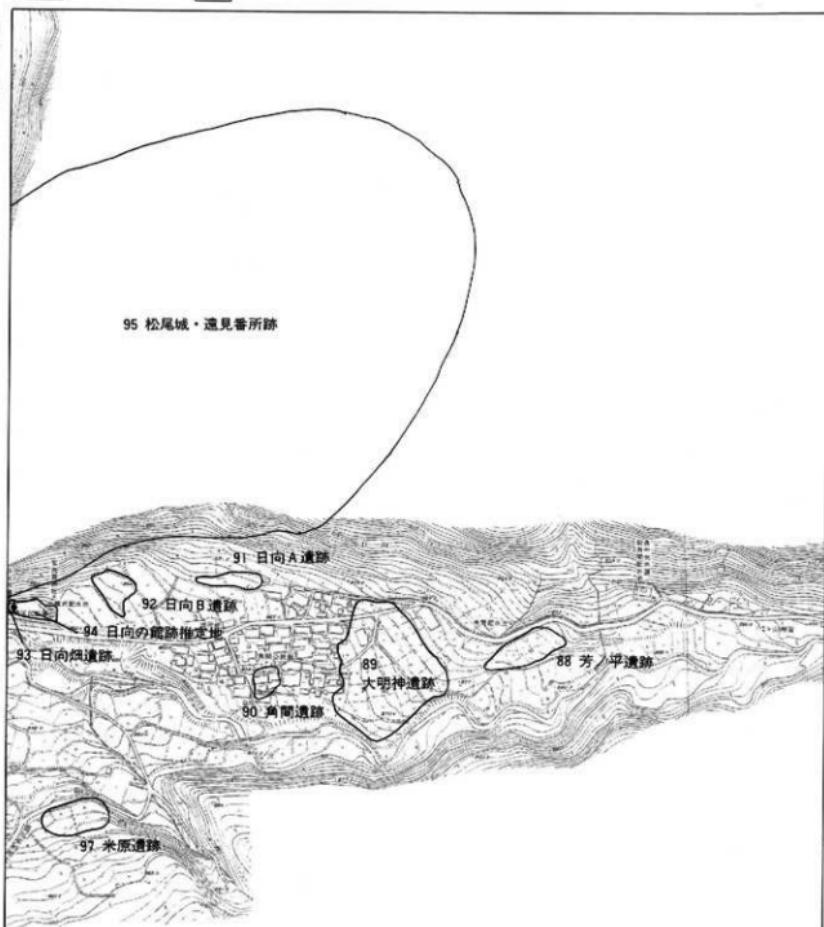


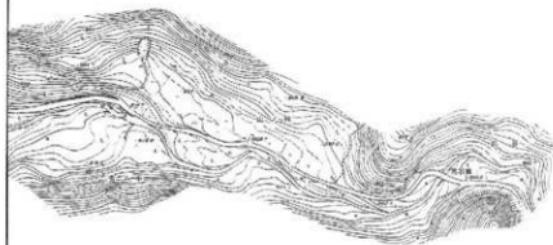
0 1 2 3 300 m

(長) 真田／横沢／角間



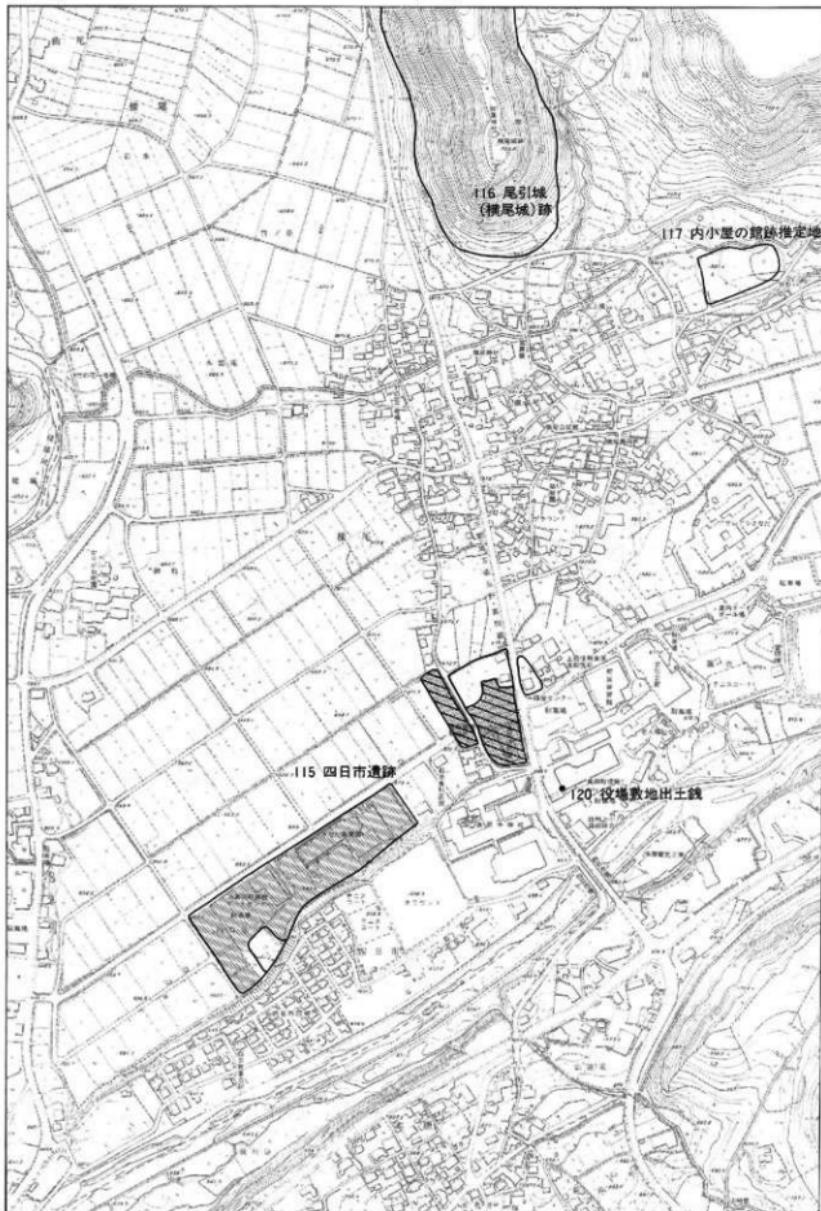






0 1 2 3 300 m

(傍陽) 曲尾
(長) 横尾 / 四日市 / つくし / 戸沢 / 石舟 /



十林寺 / (本原) 荒井 / 竹室 / 下塚